関西大学ピア・コミュニティ
2016 年度報告書

関西大学

関西大学ピア・コミュニティ
2016 年度報告書

関西大学

「2016 年度報告書の発刊にあたって」

関西大学学生センター所長
岡本　哲和

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」は、2007 年度に文部科学省・学生支援ＧＰに採択されました。その間、教職員や大学院生（ＴＡ）の指導のもと、毎年約 100 名の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践に取り組んできました。それにより、自らの手で組織を立ち上げ、プログラムを企画・立案し、それらを実行することによる「社会人基礎力の向上」、「学生と大学（教職員）との連携の促進」、従来とは異なる新しい課外活動の機会を提供することによる「『居場所』の提供」、学生が学生支援を提供する側となることによる「人的資源の拡大」、そして「学生のニーズに適応した学生支援の提供」といった様々な成果をあげることができました。

文部科学省の財政支援期間が終了した後の 2011 年度からは、本学の「ＧＰ取組継続に係る経費支援費」により運営を行い、その間も学生たちによる多様で活発な活動が行われてきました。その実績に鑑み、5 年間の学内的予算措置期間終了後も本学の経常経費として予算化が認められることになりました。グローバル化の進展など社会が大きく変化する時代に直面し、学生自身の知・徳・体の真のポートフォリオの構築が求められる中、これまでと同様に学生センター及び支援部署の教職員とＴＡとが綿密に協力し合い、そのサポートに邁進しております。

本学は 2016 年 11 月 4 日に創立 130 周年を迎え、大学を取り巻く様々な環境変化を認識し、2036 年の創立 150 周年を見据えた長期ビジョン「Kandai Vision 150」を策定しました。そこで示された教育部門のテーマである「変化を続ける社会に、関西大学はいかなる人材を送り出すべきか」に対しては、ピア・サポート活動が 1 つの回答だと考えております。学生自身が、他の学生が何を求めているか、そして他の学生をどのようにサポートするかを考えて、その遂行に至る工程を工夫して目的の実現に挑戦するという一連の過程を通じて、より豊かな人間性を形成してほしいと願っています。当プログラムは、関西大学の魅力を代表するものの一つになると確信しています。

目　次

1　ピア・サポータの育成

1.1　ピア・サポータの育成 …… 1

1.2　シニア・サポータの活動 …… 3

1.3　関西大学ピア・サポート研修 …… 6

1.4　スキルアップ講座 …… 9

1.5　効果測定 …… 17

2　ピア・コミュニティの活動報告

2.1　ピア・コミュニティ活動のあゆみ …… 25

2.2　ピア・コミュニティの活動 …… 27

2.2.1　ピア・コミュニティ運営本部 …… 27

2.2.2　国際コミュニティ“ＫＵブリッジ” …… 38

2.2.3　ピア・スポーツコミュニティ（ＰＳＣ） …… 49

2.2.4　ＫＵサポートプランナー（ＫＵＳＰ） …… 50

2.2.5　ＫＵコアラ …… 56

2.2.6　ＫＵサポーターズ …… 62

2.2.7　ぴあかんず …… 67

2.2.8　関西大学ＩＴピア・コミュニティ“i.com” …… 68

2.3　ピア・サポータからのメッセージ …… 69

2.4　支援部署職員からのメッセージ …… 74

3　学生支援室の活動報告

3.1　学生支援室の役割と主な活動 …… 77

3.2　新規ＴＡ研修 …… 78

3.3　学生支援室ＴＡからのメッセージ …… 80

巻末　　参考資料

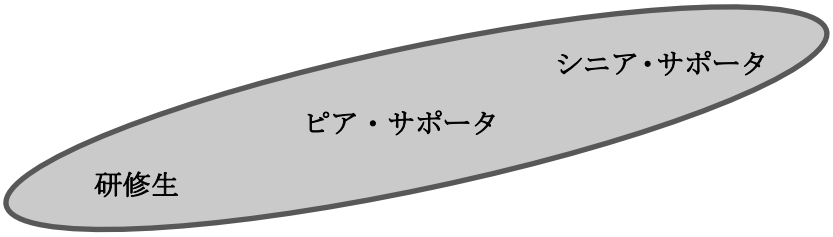
1　ピア・サポータの育成

1.1　ピア・サポータの育成

正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」が 2015 年度をもって廃止となったため、ピア・サポータ養成を行うための研修と日常の活動でこれまでの質を維持できるようにしている。例年 100 名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行ってきたが、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、これまでの学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む。）、ＴＡを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる、シニア・サポータを設けている。

ピア･コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポータ、シニア・サポータの認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポータ	シニア・サポータ
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポータの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポータの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

【ピア・サポータおよびシニア・サポータ認定条件】

ピア・サポータ認定条件

・ピア・サポータの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了とする。

シニア・サポータ認定条件

・シニア・サポータの認定条件は、ピア・サポータとしての 1 年以上の活動と、スキルアップ講座 5 つ以上の受講修了とする。ただし、経過措置として正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位修得者は 1 年以上のピア・サポータとしての活動とスキルアップ講座 3 つ以上の受講修了とする。

昨年度から引き続き、シニア・サポータとなった 10 名（新規 7 名）が、「シニア・サポータミーティング」を実施し、活動を積み重ねてきた。

しかし、今年度在籍するシニア・サポータの過半数が卒業する見込みで、シニア・サポータとしての活動を継承することが困難であることとシニア・サポータから認定条件の緩和を求める意見もあり、「学んだ知識やスキルをもとに他者を支援する活動」がピア・サポート活動であることを斟酌し、一時的な措置として、単年度の取り扱いではあるが「各コミュニティの代表・副代表経験者は、1 年以上のピア・サポータ活動歴と、スキルアップ講座 3 つ以上の受講修了」を条件（「関西大学ピア・コミュニティ入門」の単位取得者は、1 年以上のピア・サポータ活動歴と、スキルアップ講座 2 つ以上の受講修了を条件）とする緩和措置を決定した。

ボランティア活動支援グループとしても、シニア・サポータおよびスキルアップ講座について『マネジメント BOOK』（ピア・サポート活動に係る諸手続をまとめた冊子）による周知や、年間 1 つはスキルアップ講座の受講を奨励するアナウンスを行うことによって、今年度、新たなシニア・サポータ 7 名は誕生したが、課題としてはシニア・サポータの役割や具体的活動がイメージしにくいこと、所属するコミュニティでの活動に多忙であったこと、就職活動の早期化などが挙げられる。

ピア・コミュニティに所属する学生の育成について、システムとしては整えることができ、後述するピア・サポート研修、スキルアップ講座についても、質・量ともに充実していると自負するが、システム全体として受講するための動機付けに至るまで機能していないのが現状であり、いかに効率的に次年度へ継承していくかが今後の課題である。

本学においてピア・サポート活動に継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア・サポータは欠かすことのできない重要な存在であり、次年度に入って 4 月以降主役となる 3 名のシニア・サポータが自覚を持ち、積極的に活動し、次世代に繋いでくれることが希望である。今年度踏み出してくれた一歩を大切にしつつ、シニア・サポータの数やその活動内容を拡充すべく取り組んでいきたい。

1.2　シニア・サポータの活動

2014 年度新設した「シニア・サポータ」は、2016 年度 10 名で運営を行った。3 年目ということもあり、人数は増加したが 4 年次 7 名、3 年次 1 名、2 年次 2 名で、就職活動の準備等全員が集まることは難しい状況ではあった。集まったメンバーのみではあるが、協力・結束し、シニア・サポータとしてどうあるべきか、どのような活動を行っていくか等について話し合い、5 回のミーティングを開催した。

以下に、今年度のシニア・サポータの活動を記す。

【第 1 回　シニア・サポータミーティング】

開催日時：2016 年 10 月 12 日（水）　16：20～18：00

開催場所：総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア

参 加 者：シニア・サポータ 4 名、ボランティア活動支援グループ職員 2 名

概　　要：今年度第 1 回目のミーティングであり、また新たにシニア・サポータとなったメンバーを含めての初めてのミーティングということで、昨年度のシニア・サポータミーティングの記録メモをもとにこれまでの活動を振り返った後、新たなメンバーが思うシニア・サポータ像や、今後どのような活動をしていくかなど、自由に意見交換を行った。

【第 2 回　シニア・サポータミーティング】

開催日時：2016 年 11 月 9 日（水）　16：20～18：00

開催場所：総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア

参 加 者：シニア・サポータ 5 名、学生支援室 TA1 名
ボランティア活動支援グループ職員 2 名

概　　要：前回ミーティングで、シニア・サポータ達からあがった「各コミュニティの現状を知るため、学生支援室 TA から話が聞きたい」という要望に応え、TA 佐藤さんをゲストに招き、各コミュニティの活動状況について話していただいた。その後その話を踏まえながら、今後のシニア・サポータとしての活動について意見を出し合った。

【第 3 回　シニア・サポータミーティング】

開催日時：2016 年 11 月 30 日（水）　16：20～18：00

開催場所：総合学生会館凜風館 1 階　ボランティアセンター

参 加 者：シニア・サポータ 3 名、ボランティア活動支援グループ職員 2 名

概　　要：シニア・サポータとして行うこととして、前回ミーティングで「相談相手としての活動」と「シニア・サポータの広報」の大きく 2 つの意見があがり、具体的に相談相手としてどのような相談に応じるかを話し合った。また、かねてからの「シニア・サポータを増やすためには、認定条件を緩和する必要がある」

とのシニア・サポータの意見を受けて、職員から認定条件の特例措置（案）を提示し、それについても意見交換を行った。

【第４回　シニア・サポータミーティング】

開催日時：2016 年 12 月 8 日（木）　10：40～12：15

開催場所：総合学生会館凜風館１階　ピアエリア

参 加 者：シニア・サポータ３名、ボランティア活動支援グループ職員２名

概　　要：シニア・サポータ認定条件の特例措置（案）について、施行した場合にどのようなメンバーが何名程度、認定資格を満たすこととなるのかを確認し、施行する方向を決定した。また、「シニア・サポータによる相談活動」の実施に向けて、相談内容や活動日時などの概要について話し合った。

【第５回　シニア・サポータミーティング】

開催日時：2017 年 3 月 9 日（木）　13：30～14：30

開催場所：総合学生会館凜風館１階　ピアエリア

参 加 者：シニア・サポータ４名

概　　要：1 月から開始している相談活動の状況について情報共有を行った後、次年度以降の活動について自由に話し合った。

【シニア・サポータによる相談活動】

ピア・サポータからの疑問や悩みなどに対して、シニア・サポータ自らの経験に基づいて相談に応じるもの。

実施日時		相談内容
1 月	24 日（火）12：00～14：30	なし
	26 日（木）12：00～14：30	年間計画表の書き方
	27 日（金）12：00～13：00	なし
	30 日（月）10：00～13：00	春合宿について
2 月	8 日（水）10：30～14：00	春合宿について
	10 日（金）12：00～16：00	コミュニティの運営方法、サポーターズ春合宿について
	13 日（月）10：00～12：00	春合宿について
	15 日（水）12：00～13：00	企画の進め方
	20 日（月）12：00～13：00	なし
	22 日（水）12：00～13：00	なし
3 月	1 日（水）10：30～15：00	春合宿について
	8 日（水）11：00～15：00	春合宿について
	9 日（木）11：00～17：00	コミュニティの運営方法、メンバー募集について、企画の進め方

今年度のシニア・サポータの活動を振り返ると、昨年度よりも充実したものであり、密に意見交換を行い、シニア・サポータとはどういった存在であるか、また今後シニア・サポータが目指す方向について共有し、一体感をもって活動を行うことができたように思われる。

一方、シニア・サポータミーティングを行う中で、1 つのコミュニティを除きシニア・サポータが存在する体制ができたが、「ピア・サポータたちのシニア・サポータに対する興味・関心や認知度が低い」「シニア・サポータの数が少なく、活発な活動を行うことが難しい」等の課題は前年度から継続している。

次年度この課題に取り組んでいきたいと考えるが、今年度シニア・サポータとして活動した 10 名のうち 4 年次が卒業した後 3 名が残留するが、就職活動等により少なくとも 2017 年度春学期中の活発な活動は難しいことが予想される。今後新たにシニア・サポータとなるサポータには、これまでのミーティング記録などを参考に経緯を確認し、シニア・サポータについて理解を深めてもらう等、できることを行いつつ、現シニア・サポータと新シニア・サポータの連携にも配慮し、活動を推し進めていきたい。

1.3　関西大学ピア・サポート研修

1　実施目的　　ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2　対　　象　　ピア・コミュニティ研修生

3　実施日時・実施場所・受講者数

	内容	実施日時	実施場所	受講者数
①	ピア・サポートって何だろう？	4 月 18 日（月）18：00～19：30	第 2 学舎 C402 教室	19 名
		6 月 21 日（火）16：20～17：50	第 2 学舎 D102 教室	6 名
		10 月 20 日（木）9：00～10：30	凜風館 4 階 リフレッシュコーナー	5 名
		12 月 12 日（月）9：00～10：30	第 2 学舎 C202 教室	8 名
		3 月 15 日（水）9：00～10：30	第 2 学舎 C202 教室	5 名
②	自己理解	6 月 24 日（金）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	8 名
		10 月 20 日（木）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	4 名
		12 月 16 日（金）16：20～17：50	第 2 学舎 C506 教室	4 名
		3 月 15 日（水）10：40～12：10	第 2 学舎 C202 教室	7 名
③	コミュニケーション	6 月 22 日（水）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	7 名
		10 月 17 日（月）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	5 名
		12 月 15 日（木）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	5 名
		3 月 15 日（水）13：00～14：30	第 2 学舎 C202 教室	4 名
④	プランニング	6 月 24 日（金）18：00～19：30	第 2 学舎 C503 教室	6 名
		10 月 19 日（水）16：20～17：50	第 2 学舎 C503 教室	4 名
		12 月 12 日（月）10：40～12：10	第 2 学舎 C202 教室	9 名
		3 月 15 日（水）14：40～16：10	第 2 学舎 C202 教室	4 名

※①～④それぞれについて、いずれかの日程で受講。
※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。
※4 月 18 日「ピア・サポートって何だろう？」の受講者数については、支援部署職員・学生支援室 TA も含む。
※上表のほか、9 月 20 日にも実施を予定していたが、台風に伴う暴風警報発令のため中止。

4　概　　要　　本研修は、学生支援室 TA5 名（氏原・小黒・佐藤・玉村・並木）とともに考案・実施したものである。

具体的には、②③④については、昨年度実施したものをベースに、内容をさらにブラッシュアップさせる形で実施した。①については、今年度から正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」が開講されないこととなり、一般学生がピア・サポート活動、そしてピア・コミュニティについて知る機会が減ったことから、それを少しでも補うため、一般学生も受講対象とし、それに伴い、時間を 60 分から 90 分に延長、内容についても、ピア・サポータからのコミュニティ紹介の時間を設けるなど、昨年度までのものをベースに拡充を行った。

	内容	所要時間	実施担当
①	ピア・サポートって何だろう？	90 分	4 月 18 日：柴田 6 月 21 日：柴田 10 月 20 日：春名 12 月 12 日：春名 3 月 15 日：春名
②	自己理解		6 月 24 日：佐藤 10 月 20 日：小黒 12 月 16 日：並木 3 月 15 日：並木
③	コミュニケーション		6 月 22 日：氏原 10 月 17 日：氏原 12 月 15 日：玉村 3 月 15 日：玉村
④	プランニング		6 月 24 日：小黒 10 月 19 日：佐藤 12 月 12 日：佐藤 3 月 15 日：佐藤

①では、まず各自の「サポート」に関わる経験を振り返り、サポートをしたりされたりすることのあたたかさや、サポートをすることで自分も何らかの影響や刺激を受けていること等を認識してもらった。続いて、ピア・サポータとしての自覚をもって活動してもらえるよう、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学における取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。その後、ピア・サポータたちから、各コミュニティの理念や活動内容等について紹介してもらった。

②では、他者を支援する活動の基盤となる自己理解そして他者理解につ

いて、ユング心理学に基づく「8つの性格別タイプ分析」を取りあげ、習慣化された自己の言動について認識してもらうとともに、多様な性格パターンの存在を知り、人間の多様性を理解する機会とした。

③では、各々の日頃のコミュニケーションを振り返るとともに、ピア・サポート活動を行う際に必要となる、話し手の気持ちを汲み取る「傾聴」と、聞き手が理解しやすいように「自分の意見を明確に伝える力」を身につけられるよう、ワーク中心で学んだ。

④では、プランニングの概要を説明するとともに、どういった目的で誰を対象に何をするのかといった立案や、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングについて、チェックリスト等でおさえるべきポイントを確認しつつ、グループワークで体験した。

5　所　　感　①はボランティア活動支援グループ職員、②～④は学生支援室TAが担当することで実施した。

①は、ピア・サポートの概要と、それに基づいて行っている実際の各コミュニティの活動に関する知識を導入とし、後半講義の効果的な理解を促進した。②～④はピア・サポータとして、数多くの知識を要求される事項のなかでも、特に重要な「自己理解」「コミュニケーション」「プランニング」に関して学び、これまでの研修の改善点も織り込んだ形で実施できた。研修を通して、コミュニティの帰属意識の醸成の一助となるものとなったのではないかと思われる。

この研修の中で、これまでの固定観念に限られない発想を自己理解で学び、いかに本学の他の学生のニーズにマッチした企画立案、ポジショニングマップを自分で考え、みんなでブレインストーミングを行い、ロジカルな合意形成を目指すケースワークを中心に学び、実践することで身についたと思われる。その証左として、受講者のアンケートでは「日常生活でも使える技術」「実践的な学び方で楽しんでできた」などの意見があり、当該研修の本来的意義を達成したものとも考えられる。

TA1名が今年度をもって大学院を修了するため、TA自身もそのノウハウを、自信をもって、次の世代へ引き継ぐことができ、本研修がサポータ及びTAに大きな刺激になっていることを実感した。振り返り、引継ぎの重大さに関心を向けたい。

1.4　スキルアップ講座

1　実施目的　ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポータとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2　対　象　シニア・サポータ、ピア・サポータ、研修生

3　テーマ・実施日時・講師・受講者数

	テーマ	実施日時	講師	受講者数
①	思いやりを形にする	3 月 17 日（金） 13:00～14:30	教育推進部教授 三浦　真琴	10 名
②	ピア・サポート詳論	7 月 8 日（金） 16:20～17:50	大阪産業大学講師 元関西大学学生支援室 TA・RA 山田　嘉徳	9 名
③	ピア・コミュニティをマネジメントする	12 月 13 日（火） 18:00～19:30	学生生活支援グループ職員 日本ピア・サポート学会ピア・サポートトレーナー 松田　優一	15 名
④	傾聴トレーニング	2 月 13 日（月） 17:00～18:30	学生相談室相談員 植並　鈴枝	11 名
⑤	ユニバーサルデザインに基づいたコミュニケーション	6 月 28 日（火） 18:00～19:30	学生相談・支援センターコーディネーター 臨床心理士 近森　　聡	12 名
⑥	自己理解～ココロを整えよう！	10 月 21 日（金） 16:20～17:50	プール学院大学講師 元関西大学学生支援室 TA 村上　祐介	13 名
⑦	ストレスマネジメント	12 月 8 日（木） 16:20～17:50	臨床心理士 元関西大学学生支援室 TA 河﨑　俊博	8 名
⑧	「怒り」の感情と上手につきあうために～アンガーマネジメントのすすめ	10 月 11 日（火） 16:20～17:50	(社)日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター 元関西大学保健管理センター職員 辻川　恵美	6 名

※受講者数には、受講対象者の他、学生支援室 TA、支援部署教職員を含む。

4　概要・受講者の声・講師からのメッセージ

①「思いやりを形にする」概要

本講座は、グループワークを中心に進められた。はじめに、受講者それぞれの背中にある法則によって2グループに分けられる言葉の書かれたメモが貼られ、周りに質問しながら協力してグループに分かれるというワークを行った。自分に貼られたメモが何かを把握しようとするより、周りを見渡し関係のありそうなメモ同士を導いてあげるとスムーズなグループ分けができ、そのように自分のことを後回しにする気持ちも大切であるとの話があった。

続いて、丸いチョコレートを箸で挟み、器から器へ移動させる（1回目は利き手、2回目は利き手とは反対の手で行う）ワークや、講師の言うとおりに紙に図形を描くワークなど様々なグループワークを行い、ゲームやクイズのような感覚で取り組めながら、「聴く」「見る」「伝える」「選ぶ」の体験を通じ、何かをしたくてもできないもどかしい気持ちを理解すること、思い込みや自分本位で話を進めずお互いの認識を確認することなど、ピア・サポート活動を行う上で大切な視点や、多くの気づきを得た。

受講者の声

・お互いの意思を確認し合うこと、コミュニケーションを取ることの重要性を再認識した。
・グループでの意思決定、相互理解の難しさを楽しく学ぶことができた。
・企画時に使えそうなワークやアイスブレイクがあったので参考にしたい。

講師からのメッセージ

昨年にもまして　参加された方々のホスピタリティの高いことに感銘を覚えました　常日頃からの心がけ　姿勢が　自然なかたちで発現したのだと思います　今回は欲張って7つの「体験」ワークを盛り込みました　いずれも勘所に気が付いてしまえば　なんということもないワークなのですが　何かに心を奪われているとき　忙しくて心にゆとりがない場合　この「なんということもない」ことを　わたくしたちは見落としてしまいがちです　そんなことがないように　どんなときでも　他者への配慮が自然にできることを願って　ワークをデザインしました　みなさまの日頃の実践に少しでも役に立てば幸いです

②「ピア・サポート詳論」概要

資料に基づき、大学でピア・サポートが広まりつつある状況や、どのような領域のサポートが行われているのか、またピア・サポートが注目される理由等について説明があった。

続いて、3名ずつのグループに分かれ、アイスブレイクを行った後、グループごとに異なるピア・サポート活動に関する文献が配付され、それを使用したワークに取り組んだ。まず各々で文献を通読し、文献の概要や感想などについてグループ内

で共有した後、ワークシートに記載されている課題について3名で分担、それぞれ担当することとなった課題について再度文献を読み込み、他のメンバーに要点を説明した。その後、文献に記載されている大学の学生という設定のもと、当該大学の取り組みを宣伝するためのポスターを個々で作成し、他のメンバーに意図とともに発表した。

最後に、ワールドカフェ方式により、他のグループの内容について把握し、自らのグループについて発表した。

受講者の声

・他大学のピア・サポート活動について知ることができて良かった。
・取り組みは違えど、理念は同一の部分があることからも、関西大学のピア・サポート活動に活用できる部分もあると思った。
・サポートすることを通して、サポータ自身の成長につながっている、ということは共通しているのだと興味深かった。

講師からのメッセージ

ピア・サポートという実践は多様な形をとって、既に多くの大学で広く定着していますが、そこでどのような学びが得られるのかという可能性については一層検討されていくことでしょう。今回の講座でもその一端を理解頂くワークを展開しました。ピア・コミュニティならではの学びの輪が引き継がれ、今後もユニークな形で広がっていくことを応援しています。

③「ピア・コミュニティをマネジメントする」概要

はじめに、マネジメントについて、その意味や必要性について説明があり、ピア・コミュニティをマネジメントするにあたって、それぞれのコミュニティのミッションや目標、そもそもピア・サポートとは何かということ、どのようなときにメンバーがやり甲斐を感じるか等を知っておく必要があるとの話があった。

続いて、なぜ関西大学でピア・サポート活動が必要かということについて、関大生の不安や悩みが増加傾向にあることや、学生気質の変化等の説明があった。また、それらを踏まえつつ、ピア・サポート活動の意義について話があった。

最後に、より良いピア・サポート活動を行うためのコツの紹介があり、受講者にとって、ピア・サポート活動について改めて考え、今後のより良い活動のためのヒントを多数得る機会となった。

受講者の声

・ピア・コミュニティとは何か、何のために活動しているのかを考える、考え直す良い機会になった。
・ピア・サポート活動に対する姿勢や、コミュニティ内でどう動くかなど、具体的な話を聞くことができ、今後に活かせそう。

・マネジメントする側として、どういうことに気を付けて活動していけば良いのかを考える機会になった。

講師からのメッセージ

「ナナメの関係」で活動を行うピア・コミュニティでは、リーダーの役割は非常に重要です。本講座で学んだ「ピア・コミュニティのビジョン、ミッション」「ピア・コミュニティで求められるマネジメント」について、是非、自分の言葉で語れるようになってください。皆さんには大学を変える力があります。それを信じて「考動」しましょう！

④「傾聴トレーニング」概要

はじめに、各自で普段の話し方、聞き方について振り返り、自身のコミュニケーションの特徴を考えた。続いて、「聞く・聴く・訊く」の意味の違いや、コミュニケーションの仕組み、傾聴の効果・基本的態度についての説明があり、傾聴とは相手の思いを聴き、理解することであり、そのように関わることで信頼関係が築けたり、相手の気持ちにゆとりをもたらすことができたりすることを学んだ。

次に、3人グループになり、話し手／聞き手／観察者の三役に分かれ、①聞き手が手元でお題の漢字を書きながら話を聞く「ながらきき」、②聞き手が傾聴を意識しながら話を聞く「思いを聴く」の2つのロールプレイに取り組んだ。それぞれ役割を交代して3回ずつ行い、全員がすべての役割を体験した後、①と②を行ってみて、話し手／聞き手はどのような気持ちの違いがあったか、観察者は自身の感想や話し手／聞き手の様子について感じたことなど、グループで振り返りを行った。

受講者の声

・ながらききとしっかり話を聴くことを比べることは普段ないので、勉強になった。
・ながらききは気づいていないだけで、意外としているのではないかと自分を振り返れた。
・サポータの意見などを聞くのに役立ちそう。

講師からのメッセージ

他者を理解するって難しいですよね。その人を尊重しながら話を聴き理解する。話を聴く『思いを聴く』相手を理解するための質問をする。自分の想いを上手く伝えて！伝わらなければ言っただけ……ってことになります。より良いコミュニケーションをとって素敵な人間関係を築いてほしいです。サポータ活動をはじめとして、様々な他者との関係づくりに活かしていただけると嬉しいです。

⑤「ユニバーサルデザインに基づいたコミュニケーション」概要

まず、コミュニケーションとは何かについて各々で考え、数名の発表および講師の解説を通して受講者全員で共有した。また、講師からコミュニケーションには、「いる」から「深い会話」まで段階があるが、一緒にいるだけでも意味があるとの話があった。

その後、ピア・サポータ、学生支援室 TA、職員の 3 グループに分かれ、映画「十五才　学校Ⅳ」（山田洋次監督）等の 4 つのシーンを見て、シーンごとにそこで行われていた会話・交流についてグループで分析し、話し合った。グループで出た意見等を全体で発表し、それに対して講師がコメントすることで、ユニバーサルデザインに基づいたコミュニケーションに必要なことを確認した。

最後に、ペアになり、片方が立った姿勢から後ろにもたれかかり、もう一方がそれを支えるというワークを行った。もたれかかる前にひと声かけ合うことで、相手が受け止めてくれるであろうという安心感が全然違うということを体感した。

受講者の声

・どんな人にとっても、どんな相手であっても、安心できるコミュニケーションというものを学ぶことができた。
・言葉だけでなく、行動や間などもコミュニケーションとなり、相手に伝わるものがあるのだと感じた。
・第三者的にコミュニケーションを見ることで様々な発見があり、意見も共有できてよかった。

講師からのメッセージ

参加者のみなさんは、講師の提示した材料をまっすぐに受け止めて、触発された思いを率直かつ的確に表現して、議論してくださいました。講師自身も、みなさんの実感のこもった発言に触発されて、日ごろの臨床体験の中で感じていること、工夫していることを、研修の場に即してお伝えできたように思います。今後のみなさんの活躍が思い描けるような研修でした。

⑥「自己理解～ココロを整えよう！」概要

「回復力」「展望力」「社会的直感力」「自己認識力」「まわりの空気を読む力」「注意力」についてのチェックシートに取り組んだ後、それぞれの力について講師の説明に沿って点数化を行い、自らにどのような傾向があるのかを確認した。

続いて、ペアになり、片方がもう片方の脈（回数）を 30 秒間計り、脈を計られている人は内側の身体感覚に意識を集中させ、心臓の音を感じ取って心拍数を数え、数を照らし合わせてみるというワークを行った。体験を通して、自分ではできている・理解しているつもりでも、意外とできていないことを認識する機会となった。また、同じペアでチェックシートの結果について披露し合い、理解を深めた。

さらに、受講者全員に 1 粒のレーズンが配られ、レーズンを初めて食べるかのよう

にじっくり観察し、におい、味わい、またそうすることによって自らに生じる変化をありのままに感じる、レーズンワークを行った。ワークを通して、自らに注意を向け、日頃とは違った角度から自らを感じ、理解する体験をした。

最後に、「回復力」や「注意力」を調整する方法のひとつとしてマインドフルネス瞑想の紹介があり、これに取り組んだ。

受講者の声

・普段の自分のスタイルを改めて考えなおすことができる機会になった。
・落ち着きたい時には呼吸法や瞑想、自分を客観的に見るなどして、場に応じた対応ができるようになればいいなと感じた。
・普段のピア・サポート活動では企画の実施の方に意識が集中し、自分の心の動きは二の次にする人が多いように思う。多くのピア・サポータに受講してほしい内容だった。

講師からのメッセージ

この講座では、私たちが、日常の出来事に対して、主として感情面でどう反応しているのかということや、その調整方法について学びました。誰しも「ココロのクセ」をもっていますから、ピア・サポートの名のもとに集まっても、そこでの振る舞い方は十人十色……。つまずきのきっかけになるクセは微調整しつつ、互いの持ち味を活かしあえるようなチームワークを期待します！

⑦「ストレスマネジメント」概要

はじめに、メンタルヘルスやストレスについての説明があり、その後、個人で現在のストレッサーについて書き出し、そのストレッサーから自分自身にどのような反応が生じているのか振り返るワークを行った。また、ピア・サポート活動において考えられるストレスについても触れられ、人と関わる活動で起こり得るバーンアウトとボアアウトについて説明があった。

次に、ストレスマネジメントについての説明があり、自分自身のコーピングレパートリーを書き出し、受講者全員で共有するワークを行った。

最後に、リラクゼーションのためのボディワークとして、身体の力を抜く「脱力ワーク」を体験し、反対に普段どれだけ身体が緊張しているかを体感する機会とした。

※コーピング…ストレスに対する「意図的な」対処プロセスのこと。

受講者の声

・ピア・サポート活動に役立つだけではなく、普段の生活でも役に立つと思った。
・人と何かする上でストレスは避けられないし、自分を客観視できる良い機会だった。
・コーピングレパートリーを書き出したり、他の参加者の方法を聞いたことで、も

し何かあってもストレスと前向きに対峙できそうな気がする。

講師からのメッセージ

今回の研修では、現在のコーピングスタイルを自覚すること、及びコーピングレパートリーを豊かにすることを狙いとした。これを機に、これまで行ったことがなかったコーピングも試してみて、自分自身の“からだの感覚”（すっきり感等）に照らし合わせながら、自分だけのコーピングスタイルを見つけていってもらいたい。

⑧「『怒り』の感情と上手につきあうために～アンガーマネジメントのすすめ」概要

はじめに、アンガーマネジメントの概略について説明があった。続いて、怒りの感情について詳しい説明があり、怒りの強度・持続性・頻度・攻撃性について自己診断を行った。また、ここ１週間の「すごく頭にきたこと」「まあまあ腹が立ったこと」「軽くイラっとしたこと」について、各自で振り返った。

その後、【アンガーマネジメントの３つの暗号】と題して、怒りをコントロールするための３つのヒントを学んだ。具体的には、【衝動のコントロール】では怒りの感情のピークは長くて６秒ということ、またその６秒を待つための方法などを学んだ。【思考のコントロール】では私たちを怒らせるものの正体である「べき」について学んだ。他者の「べき」と自分の「べき」が違うことで怒りが生じること、また違っていたとしても許容可能な範囲を広げ、許容できないところを少なくすると生きやすくなることを学んだ。【行動のコントロール】では怒りは高いところ（人間関係において強い人）から低いところ（人間関係において弱い人）へ流れるなど、怒りの性質について学んだ。

受講者の声

・怒りの感情の正体や、怒りを感じた時のコントロール方法を知っておくことで、周囲との関係や、自分自身が生きやすくなることの手助けになると思った。
・怒りをマネジメントするためのヒントをたくさん頂いたので、それらを日常で活用していきたい。
・怒りの感情と向き合う、いいきっかけにしたい。

講師からのメッセージ

講座でお伝えした怒りの連鎖をストップするスキル、６秒の魔法の言葉、今怒るのか？どう伝えたいのか？自分がどうして欲しいのか？すべての感情行動は自分で決めて、自分で選ぶことができるということ。

多様化した価値観の日常においても怒りの感情と上手に付き合うことで関係するすべての≪いのち≫を大事にすることに繋がると思います。

5　スキルアップ講座全体として

上級資格の研修として考えており、各大学間でも試行錯誤が見られる研修と考えられる。各大学でも課外活動や奨学金、法律関係の諸問題、倫理教育、キャリア形成など様々な分野にまたがる知識を要求されるものと位置づけられている。本学では、「思いやり」「コミュニケーション」をゲームやグループワークによって習得しコアの形成、及びサテライトとして「傾聴トレーニング」「アンガーマネジメント」「ストレスマネジメント」など周辺に関わる領域についての知識・技術を深め、全体的にバランスをとったメニューによって構成している。

参加者にとっては、「気付き」の機会となる多くの学びの中で、豊かな感受性と包容力を培うものであったと思料する。何かを完成させる、成し遂げる、達成することのプロセスにおいて、いろいろなアプローチの存在にも「気付き」があったのではないかと考えている。ただし、受講生の時間的・人数的な制約で全てのプログラムの消化が可能ではないところに課題を残すところである。

ピア・サポートが単なるボランティアではなく、仲間のために協力してサポートするために何をどのようにするのか考えてから行動することまでを責任もって実行することが、“THINK×ACT”を実践できる「考動する関大人」の育成に一助となる研修であると自負している。

1.5　効果測定

1　実施目的　ピア・コミュニティに所属する学生を対象に、①自らについて振り返る機会を提供し気付きを促すこと、②その気付きを集約しピア・サポート活動を行うことの効果を目的とし、「ピア・サポート活動に係るアンケート」を実施している。

2　対　　象　研修生、ピア・サポータ、シニア・サポータ

3　実施方法　2017 年 1 月～3 月の間、ボランティア活動支援グループ職員が、各コミュニティのミーティングに出向き、20 分程度で実施。なお、アンケート未回答者に対しては、各コミュニティ代表者を通じてメールを送信し、メールでの回答も受け付けた。

4　回 答 数　33 件（メールでの回答 3 件を含む）

5　概　　要　・「社会人基礎力尺度」（関西大学版）[山田・押江・田中、2009]を「ものさし」として自己評価し、気付きを作る。
・ピア・サポート活動を始める前、もしくは 1 年前と変化したと思う項目について、自由に記述することで振り返る。
・なぜそのような変化が生じたか（生じなかったか）を自由に記述することで振り返る。

6　整理方法　「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」は、ピア・サポート活動での様々な体験を通して、※社会人基礎力や他者を思いやる豊かな人間性の涵養を図る取組である。よって、学生から得られた主な回答を、社会人基礎力で挙げられている「12 の能力要素」及び「他者を思いやる豊かな人間性」で分類した。
なお、個人の特定につながる表記については、一部変更・削除した。

※「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事していくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が 2006 年から提唱している。

7　回　　答　問 A 群「ピア・サポート活動を通して生じた変化はありますか？過去（活動期間が 1 年未満の方はピア・サポート活動を始める前、活動期間が 1 年以上の方は 1 年前）のあなたと比較して、自由に書いてください。」
問 B 群「なぜそのような変化が生じたのか（生じなかったのか）、気付いたことを自由に書いてください。」

問 A 群	問 B 群
【主体性】物事に進んで取り組む力	
● 責任感が強くなった。	● 代表という役割と、もともと自分の性格からだと思う。
● やらなければいけないことを常に意識できるようになった。	● ピア・サポータにはたくさんの人がいて、その人たちの良い所を学ぼうと思うようになったから。
【働きかけ力】他人に働きかけ巻き込む力	
● 人前で少しは堂々と話せるようになった。	● 司会などをする企画が多くなったから。
● 自分たちで進めていくことでリーダー像が分かってきた。	● ピア・サポータにはたくさんの人がいて、その人それぞれの良いところをもらうようになったから。
● 何人かの意見をまとめることができるようになった。	● 日本人だけではなく留学生と交流することが多かったので、より相手に分かりやすいように伝える方法を考えるようになった。
【実行力】目的を設定し確実に行動する力	
● 目標に対して、少しだけ積極的に頑張ろうと思えるようになった。	● ピア・サポート活動をしている人はそういう人が多いので、感化されたのだと思う。
【課題発見力】現状を分析し目的や課題を明らかにする力	
● 代表をする前と後では、出来る事が増えたというよりも、出来ない事がたくさん分かったという感じがする。	● 代表をしなければ何が出来て何が出来ないのかを知る機会が少なかった。この 1 年を通じて、これからの自分の成長に何が必要かを知ろうとしたからだと思う。
● 問題の理解や具体的な解決策について考えることができるようになった。	● 新しい考えを提案しなければならない機会が増えたため。
【計画力】課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	
● 計画を立てて物事の優先順位をつけることや、人と変わった意見・アイデアを思いつくようになったと思います。	● 大学の勉強やアルバイトなどの用事とすり合わせて企画を進めていくので、計画を立てる力は身についたと思います。
● 計画性が身につき、優先順位を考えて行動できるようになったと思う。	● 自分が担当していない企画であっても、進み具合や期限を把握しておく必要があるから。
● まだ分からないことも多いですが、先輩方とお話ししていく中で、企画の練り方など少しずつ分かってきました。提出物などは、期限までにどういった過程でやっていけば良いのか、計画を立てるということが大切だと改めて感じました。	● 今までは、自分達で何かを考えて行動するといった機会が少なかった。ピアでは色々なことを自分達主体で行うことが多いからだと思う。
● 私はこのような企画を考えたりする団体に関わることが初めてだったのですが、計画することはとても大変で、前もって準備しなければいけないことが沢山あることを知りました。	● 大学では高校までの先輩よりも、より大人びた方々に出会えて、学べることが多かったです。

【創造力】新しい価値を生み出す力	
● 他人の意見を理解し、必要であれば自分の意見も取り入れて新しい考えを提案することができるようになった。	● 会議でさまざまな議題について話し合う機会が多くあったため、他人の意見を聞く機会が増えたため。
● 「何かがあった時どうするか」等の社会の常識めいた何かを体得しつつ、失敗しつつの試行錯誤をしていると思う。	● 部活してなかったけれど、いきなり部活のような体験をし、学ぶものが社会常識なのではないか。
● 計画を立てて物事の優先順位をつけることや、人と変わった意見・アイデアが思いつくようになったと思います。	● 学園祭では、他のコミュニティの人と連絡や、人と関わる機会が多かったので、人と話せるようになったのだと思います。また、大学の勉強やアルバイトなどの用事とすり合わせて企画を進めていくので、計画を立てる力は身についたと思います。
● 人と違う視点で着眼できるようになった。	● 様々な人と出会い、感化されたため。
【発信力】自分の意見を分かりやすく伝える力	
● みんなで決めたことに対して、結構自分の意見を言わずにしてしまうことがあったが、積極的に意見を言うようになった。	● ピアには自由に発言できる場・空気があると思うし、そこの影響で発言するようになった。
● 人の前に立つ事が多かったので、恥ずかしがらずに発言するようになった。会話の大切さを改めて知った。	● 日本人だけでなく留学生と交流することが多かったので、より相手に分かりやすいように伝える方法を考えるようになったから。
【傾聴力】相手の意見を丁寧に聞く力	
● 人の話を聞く、相手の立場でものを考えるのがとても苦手で自分の尺度でしか、物事を見られませんでした。コミュニティに入る前と比べるとマシになったと思います。成長できたと思っています。	● ピア・サポートという団体が傾聴に特化していた点、特に千杯方がとても優しく傾聴を実現している姿が自分の間近で見られたから。今までそんな人に出会えたことはなかったから。
● 人の話を少し聞くようになった。	● 様々な人と会い感化されたため。
【柔軟性】意見の違いや立場の違いを理解する力	
● 今までも自分と意見が異なる人と活動する場はあったが、ピア・コミュニティでは特にいろいろな考え方の人と出会った。1 つのコミュニティをともに運営する上で、異なる意見をどのように合意形成するか方法を学んだ。	● 単なる友達なら、異なる意見を合意に導く必要はないが、コミュニティの一員として話し合って合意形成しなければならない状況だったからだと考える。TA や職員などから、学生とは別の視点の意見を頂けたことも視野の拡大につながった。
● 立場の異なる相手の考え方を理解しようとする姿勢が身についた。	● 意見の対立する場面が会議で良くあったため。
● 支援部署などとの付き合い方が変わったと思う。	● 支援部署とのコミュニケーションを積極的にとるようにしたから。

● ピア・サポート活動を通して、もっと相手の気持ちになって理解することができた。	● イベントを立案する場合、どうすればみんなが取り組みやすいように、段取りよくイベントを考えないといけないので、相手の気持ちを考えてきた。
● 自分とは異なる考え方や価値観を認めることができるようになった。	● 代表という役職と、もともとの自分の性格からだと思う。
【情況把握力】自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	
● 以前と比較すると、周りの状況が見られるようになった。	● 活動を通して、様々な経験ができた。
● たった 3 カ月ほどの活動だが、抽象的に言うと、大きく人間的に成長できた。	● 小・中・高校にはないような、大学ならではの対人関係のあり方というものを認識できたから。
● 周囲の人との関わり方を、工夫することができるようになった。	● グループで行動することが増えたからだと思う。
● 私はピアでの活動をするまでは、どちらかというと狭く深く人と関わるタイプであった様に思うのですが、多くの人と関わりを持てるようになったと感じます。	● 企画を通してたくさんの人と接するチャンスが増えたため。
● 周りのことを今まで以上に注意して見ることができるようになった。	● ピア・コミュニティとは、団体で活動するため、常に周りを考えて見ることが大切だから。
● 他のコミュニティとの交流も少しは増えたと思う。	● 他のコミュニティの活動に参加するようになったから。
【規律生】社会のルールや人との約束を守る力	
● 「報・連・相（ホウレンソウ）」の大切さが身にしみました。	● 企画をスムーズに進めるために、メンバーとの入れ違いをなくすために大切だなと思いました。
● 管理の大切さに気づいた。	● 企画を通してたくさんの人と接するチャンスが増えたため。
【ストレスコントロール力】ストレスの発生源に対応する力	
● 嫌なこと、面倒なこと、大変なことを経験することで、頭が柔らかくなった気がします。壁にぶち当たった時、自分なりにいろいろ考えた経験は自分の成長につながりました。	● 自分で解決できないことを、人に助けてもらえたから。

【他者を思いやる豊かな人間性】	
● 誰かのために、何かをするという事の意味を、あらためて考えるようになった。他人との向き合い方を考えるようになった。	● 研修を通じて、学んだ事から考えて行動するようになった。
● 困っている他人を助けようと考えるようになり、ピア・サポート以外の活動に追われている人の企画を率先して手伝った。	● 3 年次になり時間割に余裕があり、時間があったから手伝った。
● 以前よりも、相手の立場を尊重した上で、その相手の発言の裏にはどのような心情や動向があるのかを、考えるようになった。	● 今まで以上に、周りの人と協力して企画を実施する機会が増えたため、必然的に相手のことを考えて行動する重要性が理解できたため。
【その他】	
● ワードが少し上手くなりました。	● 書類を書くようになったからです。
● パソコンの使い方、一般常識など少しずつ理解して、去年の自分よりパワーアップしているかなと思います。	● リテラシーの向上に関わる経験を積んできているからだと思います。
● 文章を書く力が身についた。	● 司会などをする企画が多くなったから。
● 計画書や報告書などの書き方が分かってきた。様々な人達（職員・TA や、同じコミュニティの人など）と関わる機会が多くなった。	● ピア・コミュニティと言う1つの団体に入ることで、人と出会う機会が大幅に増えたため。
● 他のコミュニティとの交流も少しは増えたと思う。	● 他のコミュニティの活動に参加するようになったから。

8　昨年度との比較

本アンケートは一昨年度（2014 年度）から実施しているものであり、33 件の回答中、12 件が昨年度に引き続いての回答であった。

全体としては、昨年度と同様、ピア・サポート活動を行う中で生じた様々な変化やその理由等について記載されており、ピア・サポート活動を行うことの意義が読み取れるとともに、アンケートに回答することが、それぞれの学生にとって自らの活動に意味づけを行ったり、自らの現状・変化・成長、そして今後の課題を認識する良い機会になっていると考えられる。

なお、これまでに 2 度回答した 12 名の問 A 群に着目し、個々の学生ごとに 2016 年度の回答と 2015 年度の回答を比較し、主なものを下表にまとめた。2015 年度の回答では一サポータとしての成長・変化に関する記載が中心となっているが、2016 年度は目標への計画的実行の力、他者へのコミュニケーションのとり方、組織における自らの成長・変化に言及する記載が多く見られ、ピア・コミュニティでの活動期間や役割の変化等が、学生の社会への同化を促し、比較的に成長をもたらしていることが伺える。

2ヵ年度の比較		
2015年度	2016年度	区分
● 自分があまり悩まなくなった、というのか悩んでも仕方ないことは、引きずらないようにするようになった。	● 嫌なこと面倒なこと大変なことを経験することでより考え方が柔らかくなった気がします。よく言われる壁にぶち当たった時、自分なりに色々考えた経験は自分の成長につながりました。	B
● 人について、より興味を持つようになり、人の関わりが増えたと思う。また、人の話を聞くスキルが身につき、人間関係が良好に築けるようになった。	● ①責任感が強くなった。 ● ②自分と異なる考え方や価値観を、認めることがよりできるようになった。	C
● 依頼メールでの言葉遣いなどを少しずつではありますが、吸収できています。自分から手伝いなどの”動き”をすることを学んでいると思う。	● パソコン、一般常識などを少しずつ理解して去年の自分よりパワーアップしているなと思います。	A
● 昔より細かいことを気にしなくなったところ。いろんな人がいるということをより認識できるようになった。	● 立てた目標に対して、少しだけ積極的にがんばろうと思えるようになった。	A
● 分からないことをそのままにせず、確認するようにした。復唱することを心がけた。	● 支援部署などの付き合い方が変わったと思う。また、他のコミュニティとの交流も少しは増えたと思う。	C
● メールで様々な人と連絡をとる機会ができ、伝わるように、失礼のないように文章を考えることになった。	● 困っている他人を助けようと考えるようになり、ピア・サポート以外の活動に追われている人の企画を、率先して手伝った。	A
● 社会生活をする上での基本的なこと(時間厳守や話し方、聞き方)を学び、自信がついた。また、責任感が強くなった。	● 代表をする前と後では、できることが増えたというよりも、できないことがたくさん分かったという感じがする。	A
● 始める前よりは困っている人に声をかける回数が増えたと思います。	● 人前で少しは堂々と話せるようになった。文章を書く力が身についた。	C
● 人の話を聞くのが好きになりました。人見知りをあまりしなくなった。	● 計画性は身につき、優先順位を考えて行動できるようになったと思う。	C
● 自分の意見をより考え、述べるようになった。	● 立場の異なる相手に対して、相手の考え方を理解しようとする姿勢が身についた。	B
● 企画への取り組み方に新しい方法を知ることができた。いろいろな考え方や努力している人を知ることができた。また、企画の手法などを知ることができた。	● 計画を立てて物事の優先順位を決めたり、人と変わった意見・アイデアを思いつくようになったと思います。	C

【区分記号】

A：昨年度と比較して、全体的に伸びを示す。

B：昨年度と比較して、同系統の伸びを示す。

C：昨年度と比較して、別系統の伸びを示す。

9　所　　感

本アンケートは 3 年目の実施であり、単年度では見出せなかった何かを見出せるのではないかと期待していたが、個々の学生の経年比較において如実に確認することができた。アンケートを継続して実施することの意義をあらためて認識するとともに、アンケートの回答を個別に学生にフィードバックすること等を通して、さらなる成長に繋げていきたいと考える。

一方で、昨年度から回答数が 3 件減少した。これまでのピア・サポート活動を振り返ってほしいとの想いからこれまで年度末に実施してきたが、休業期間に入ると帰省や留学等のため大学に来ない学生が多数いるため、実施時期の変更等、回答数を増やすための方策や昨年度比に関する評価方法についてさらに検討していきたい。

2　ピア・コミュニティの活動報告

2.1　ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008 年度に発足した「国際コミュニティ“KU ブリッジ”」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009 年度に発足した「KU サポートプランナー」、「KU コアラ」、「KU サポーターズ」、「ぴあかんず」、そして 2010 年度に発足した「i.com」、あわせて 8 つのピア・コミュニティが、これまでピア・サポート活動を行ってきた。

以下の表は、2016 年度における各ピア・コミュニティのあゆみである。メンバー不在により活動できなかったコミュニティがあり、活動の再開に向けて方策を考えていきたい。

▼年間の活動状況

	ﾋﾟｱ･ｺﾐｭﾆﾃｨ運営本部	国際ｺﾐｭﾆﾃｨ“KU ﾌﾞﾘｯｼﾞ”	ﾋﾟｱ･ｽﾎﾟｰﾂｺﾐｭﾆﾃｨ（PSC）	KU ｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗﾝﾅｰ（KUSP）	KU ｺｱﾗ	KU ｻﾎﾟｰﾀｰｽﾞ	ぴあかんず	i.com	代表者会議
2016 年									
4 月	・新入生誘導活動	・ようこそ関大プロジェクト ・KU バザー		・「STEP！」～勉強の仕方を聞こう～ ・『片付けたくなる部屋づくり』 ・料理企画	・特集本展示「レポート作成」	・ほっこり相談室			19 日
5 月						・新入生交流会			10 日 24 日
6 月	・Welcome to ピア･コミュニティ ・第 39 回総合関関戦観戦ツアー	・Stay and Enjoy in Rokko			・第二回特集本展示「資格試験」				7 日 21 日
7 月		・摂津峡新緑ハイキング		・「STEP！」～試験前の不安を解消しよう～					5 日
8 月									24 日
9 月	サマーワーク 2016（1 日研修）								
		・夏合宿 in 奈良			・第三回特集本展示「理工系」	・自主研修合宿			
10 月		・ディープな大阪再発見の旅！ ・KU バザー							6 日 20 日
11 月	・peer 憩いの場「はねやすめ」 ・ウィンターワーク	・Global mystery tour in 京都！！			・第四回特集本展示「食」				10 日 24 日
12 月	・ピア・サポート団体交流イベント	・Making SUSHI Samples！		・輝く自分に！vol.2	・POP 作成講座				8 日
2017 年									
1 月									12 日
2 月	・入試誘導					・自主勉強会			23 日
3 月	ピア合宿								
	・ピアエリアの活性化	・交換留学生キャンパスツアー							9 日

【参考】各ピアコミュニティのあゆみ

	ピア・コミュニティ運営本部	国際コミュニティ“KUブリッジ””	ピア・スポーツコミュニティ（PSC）	KUサポートプランナー（KUSP）	KUコアラ	KUサポーターズ	ぴあかんず	i.com
2007								
2008								
2009								
2010								
2011								
2012								
2013								
2014							活動休止中	
2015			活動休止中					活動休止中
2016								

2.2　ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポータからの声を中心にピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

2.2.1　ピア・コミュニティ運営本部

■　ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という）は、存在するすべてのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポータの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

■　所属人数

22 名（男 13 名、女 9 名）
＊1 年次 5 名、2 年次 6 名、3 年次 3 名、4 年次 8 名（2017 年 3 月末現在）

■　ミーティングの概要

週 1～2 回（曜日は不定期。随時、調整。）

■　ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を 1 週間に 1 回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えていた。

企画を進めていく際は研修生が主体となって企画を進めていき上位年次がサポートするという形をとった。こうすることで、研修生が積極的に関わっていく姿勢を養えた。

■　ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿などの合同企画を通じて、すべてのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

■　教職員との連携について

昨年度から、サポータ自身が考えて行動できるようになる中で、支援母体であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言を頂きながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートを目指していきたい。

■　昨年度からの改善点

今年度は、昨年度と比べて人数が増え、活動が活発化した。しかしその一方で人数が増えたことにより、企画の担当者間で話し合いの場を設けることが難しくなり、情報共有がしにくくなった。その結果、企画の進行が遅れることがあったり、経験の少ない 1 年次や研修生が多かったこともあり、手が回らず、ぎりぎりになって上位年次に頼ることが少なくなかった。今後は 1 年次にも中心となって企画を担当してもらうことで、経験を積んでもらいたいと思う。また、企画の進行などについて先輩が後輩にアドバイスを積極的に行うなど、コミュニティ内でしっかりコミュニケーションを取りながら活動していきたい。

◆企 画 名　新入生を迎えよう！（新入生誘導活動）
日　　程　2016 年 4 月 1 日（金）
場　　所　関西大学千里山キャンパス
参加者数　13 名（ピア・サポータ 12 名、研修生 1 名）
目　　的

4 月から新しく関西大学の仲間（peer）となった新入生に対し、誘導活動を行うことで入学式を円滑に進めることに加えて、ピア・コミュニティを知ってもらうきっかけとし、ピア・サポートの普及を行うことを目的とする。
また、ピア・サポータ間の交流を促進し、今後の円滑な活動につなげる。

内　　容

主な活動としては、正門を中心とした学内での新入生、保護者に対する式場への誘導、写真撮影の補助、スムーズな人の流れや通路を確保するためのアナウンスを行った。加えて、式場（中央体育館）周辺にて、午前／午後の入学式後に新入生、保護者に対する誘導を行った。誘導はピア・サポータから積極的に呼び掛けを行うことで、案内係であることを明確にし、同時にピア・コミュニティを知ってもらうきっかけとした。

効　　果

・新しく関大生（の仲間）となった新入生に対して、ジャンパーを着て誘導活動を行ったことで何の団体なのか質問してくれる人もおり、ピア・コミュニティの広報活動につながったと考えられる。
・今年度はピア・コミュニティ春合宿をきっかけに他のコミュニティからの参加もあり、ピア・サポータ間の交流が促進された。
・新入生だけでなく保護者の方への誘導もスムーズに行うことができ、入学式の円滑な進行に寄与できたと考えられる。

改 善 点

・図書館側と時計台側の写真撮影の列がぶつかり、通路が狭くなってしまったことで新入生や保護者の方がスムーズに式場に行くことができなかった。列を整理するためのコーンの位置を再検討する必要があると思われる。
・オリエンテーション実行委員のテントの設置位置と、時計台付近の看板での写真撮影で並ぶ人の列がぶつかってしまったので、事前にオリエンテーション実行委員との打ち合わせが必要であると感じられた。
・拡声器はやむを得ない場合のみに使用することになっていたが、どのアナウンスを拡声器を用いて行うのかを明確にしていなかったので、それを明確にしておくと、より活用できたかもしれない。

感　　想

直前に看板の位置が変わるといったイレギュラーな事態も起こったが、各ピア・サポータが自分で考えて案内や誘導を実施できた点がよかった。また、昨年度に比べると参加人数も多かったため人員配置もうまくいったと思う。
昨年度の反省を活かし、今年度は案内の開始時間を早め、活動時間を多くとったこともスムーズに活動できたことにつながっていると考えられる。
今年度の活動を通じて、来年度につなげられるような改善点も見つかった。来年度は、今年度の反省点や改善点を活かしつつ、より良い誘導活動を行い、新入生を迎えたい。

◆企 画 名　Welcome to ピア・コミュニティ
日　　程　2016 年 6 月 7 日（火）、6 月 15 日（水）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　ミーティングルーム
参加者数　7 日：18 名(ピア・サポータ 7 人、研修生 6 人、学生支援室 TA3 人、職員 2 人)
　　15 日：16 名(ピア・サポータ 5 人、研修生 7 人、学生支援室 TA2 人、職員 2 人)

目　　的

①今年度新しくピア・コミュニティに入った研修生に対して、各コミュニティの活動内容を知ってもらいピア・コミニティに馴染んでもらう。
②鍵の管理やピアエリアの利用方法について説明することで、新規研修生が今後ピアエリアを利用しやすいようにする。
③研修生同士の交流を促進することで、今後活動するにあたり、コミュニティ間の連携につなげる。
④楽しみながらできるワークを行い、新規研修生がピア・コミュニティでの活動を楽しい、と思えるようにする。

内　　容

（共通点探しゲーム）
ペアを作り、お互いの出身地や好きな食べ物など、3 分間の中でできるだけ質問を繰り返し、同じ答えになったものを共通点とし前のホワイトボードに書き出してもらった。最後に、同じ食べ物や映画など、その答えになった過程等を何人かに話してもらった。
（ピア・クエスチョン）
ピアのことをより深く理解してもらうためにまずコミュニティ紹介を行い、その後ピアに関するクイズ「ピア・クエスチョン」を行った。ピアでの企画実施までの流れを大まかに説明しつつ、その途中で企画の流れに関する質問を行った。グループに分かれてもらい、それぞれのグループで考えた答えをヌーボードに記入し全員で答えを共有した後、正解を発表した。
（備品説明）
ピアエリアに移動し、ピアエリアや備品を使用する際の注意点、備品台帳の記入の仕方等を説明した。

効　　果

・参加者にとってはピアエリアについての注意事項や、備品についてを知る良い機会となった。
・それぞれが積極的に話しかけ合い楽しんで会話をし、グループで一緒に考えることによってこれからピアの一員として活動していくことの団結力が強まった。
・今回の企画を通し、他のコミュニティの人たちと親睦を深めることができた。

改 善 点

・ワークの内容がすぐに決まらず、準備時間が短くなってしまった。
・欠席者が出た場合の事を想定しておらず、グループワークの際、急なメンバー変更に戸惑ってしまった。
・運営本部のメンバー間で机や椅子の配置の周知が行き届いておらず、さらにミーティングルームの使い方を把握していなかったことで、当日の時間のロスに繋がってしまい、参加者を待たせてしまった。

感　　想

・参加者に楽しんでワークを行ってもらえたのでやりがいがあった。
・自らもこの企画で他のコミュニティのサポータと話すことができて、楽しい時間を過ごすことができた。

◆企 画 名　第 39 回総合関関戦 観戦ツアー（関西大学体育会共催）
日　　程　2016 年 6 月 18 日（土）～6 月 19 日（日）
場　　所　関西大学千里山キャンパス
参加者数　18 日：12 名（ピア・サポータ 6 名、一般学生 6 名）
　　19 日：14 名（ピア・サポータ 9 名、一般学生 5 名）

目　　的

・スポーツで活躍している関大生の姿を、より多くの関大生に知ってもらうことで、体育会及びピア・コミュニティの普及とピア・サポートの精神の涵養を目的とする。
・他団体や他コミュニティのサポータとともに活動することで、団体間の交流の促進を図り、今後の更なるピア・コミュニティの発展に活かす。

内　　容

関西大学体育会から、ピア・コミュニティに対し、第 39 回総合関関戦の実施に当たり、様々なスポーツで活躍している関大生の姿をより多くの関大生に知ってもらい、応援してもらいたいとの協力依頼があった。活躍している関大生を応援することは、関大生が関西大学への帰属意識を高めるきっかけとなり、また関大生同士の新たなつながりが生み出されることにより、学生間又は各団体の今後の関西大学での諸活動に活かされ、ピア・サポートの精神の涵養、また、ピア・コミュニティをより多くの関大生に知ってもらう機会にできると判断し、実施することとなった。

総合関関戦期間中に行われる各競技の試合に、一般募集した関大生とともに、ピア・コミュニティのメンバー及び体育会本部のメンバーが同行し、観戦するツアーを行った。この際、体育会員より、応援グッズの配付・各競技に関する説明などを行ってもらい、スポーツで頑張る関大生を一丸となって応援した。

・観戦競技　6 月 18 日（土）　17：00～19：00　サッカー（中央グラウンド）
　　6 月 19 日（日）　10：30～12：30　バレーボール女子（中央体育館）
　　12：30～13：50　バレーボール男子（中央体育館）

※6 月 19 日について、雨天のため応援席の状態が良くないことから、当初観戦予定にしていたホッケー男子からバレーボール男子に変更した。

効　　果

・ピア・コミュニティを一般の学生に、知ってもらえるよい機会となった。
・学内の他団体と関わる機会を持ち、スポーツで活躍する関大生を応援すべく総合関関戦に向けて企画をできたことは、ピア・コミュニティのメンバーにとってよい経験になった。
・ピア・コミュニティ内においても、総合関関戦を知るよい機会となり、また他のコミュニティのメンバーと一緒に活動したことで、つながりが広がった。

改 善 点

・インフォメーションシステムのお知らせ、ポスターの掲示、ビラの配付などの集客の活動に関して、明確に効果を測ることができなかった。
・雨天の場合について、事前に考慮しておくべきであった。
・一般参加者数が想定よりも少なかった。広報の方法や企画の内容についてより魅力的なものとなるよう工夫する。

感　　想

・関西大学の他団体と関わることができ、ピア・コミュニティを広く広報することができてよかった。
・初めての企画であり手探りで進める中で、体育会の担当者の方とも連絡を密にとり、お互いにとってメリットのある企画を行うことができてよかった。せっかくできたつながりを今後の活動にも発展させていきたい。

◆企 画 名　サマーワーク 2016
日　　程　2016 年 9 月 8 日（木）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階 ミーティングルーム
参加者数　16 名（ピア・サポータ 6 名、研修生 5 名、学生支援室 TA3 名、職員 2 名）
目　　的

・コミュニティ間の交流を促進し、サポータ同士のつながりを深め、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。
・サポータにスキルアップの場を提供し、今後のピア・サポート活動の中で活用してもらう。

内　　容

【タイムスケジュール】
10:30～10:50 はじめに・自己紹介
10:50～12:05 本部ワーク（褒めることでモチベーションをあげよう）
12:05～12:50 昼休憩
12:50～14:00 TA さんワーク（話に引き付ける技術）

本部ワークでは、はじめに、個人でモチベーションをあげる、もしくは維持する方法を考えてもらい、その後グループで意見を共有し、出た意見を模造紙にまとめて発表してもらった。グループで意見を出し合い交流できたところで、モチベーションをあげるために必要な褒めるというスキルを学べ、さらに交流を促進することができる、カードゲーム形式の褒めゲームを行った。

TA さんワークでは、人前で話すにあたって効果的なジェスチャーやアイコンタクト、分かりやすく話す方法を教えていただき、実際に教えていただいた方法を使って参加者の前でわかりやすく発表するワークを行った。

効　　果

・コミュニティ間の交流は参加者が少なかったため難しかったが、少人数の良さを活かして、参加者同士のつながりを深めることができた。
・次回の企画にも参加したいと思ってもらえるような企画にすることができた。

改 善 点

・ミーティングルームを使ってリハーサルを行わなかったため、椅子や机がどういった場所にあるのか当日になるまでわからなかった。次回からはリハーサルも当日と同じ場所で行えるように調整する必要があると考えられる。
・それぞれのワークの際に、うまく参加者に指示を出すことができなかった。リハーサル時につまったところは本番ではスムーズに行えるように改善していきたい。
・前日までに用意しておくべきものが用意できていなかった。準備は早めに終わらせておく必要がある。
・他のコミュニティからの参加者が少なかった。参加者募集の方法や告知方法などを工夫していきたい。

感　　想

・うまく協力して企画を作り上げることができたと思う。
・今回は参加者が少なかったために他のコミュニティの方とあまり交流できなかった。これからはこういった企画を実施するにあたり、参加者募集の方法を考えるなどして、より多くの人に参加してもらい、交流の輪を広げていきたいと思う。

◆企 画 名　peer 憩いの場“はねやすめ”
日　　程　2016 年 11 月 3 日（木）～11 月 6 日（日）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア、グローバルエリア、ライティングエリア
参加者数　15 名（ピア・サポータ 10 名、研修生 5 名）
目　　的

ピア・コミュニティの大きな課題として、団体の知名度がまだまだ低いという点が挙げられる。そこで、学園祭という大勢の人々が関西大学に集う機会を利用し、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえる場を設けることで、団体への興味関心を喚起し、「おもしろさ」を感じてもらえるようにする。また、ゆっくり座って休憩したり買ったものを飲食したり、学園祭をより楽しむためにもちょっと一息つける場所にもしたい。

内　　容

・ピアエリアの備品だけではなく、コラボレーションコモンズの備品をお借りして、凜風館 1 階のピアエリア、グローバルエリア、ライティングエリアに飲食可能で座って休憩できるスペースを設けた。
・各コミュニティから企画時の活動風景を撮影した写真や、企画広報時に作成したポスターを提供してもらい、ホワイトボードなどを利用して掲示した。
・企画場所には常時サポータ・研修生を配置し、ピア・コミュニティに関する質問や学生生活に関する質問を受け付けることができるようにした。

効　　果

・普段はピア・コミュニティという団体がどのような活動をしているのかを知ってもらう機会はあまりないが、学生だけでなく一般の学外の人々も掲示物を見てくれている姿を見かけることが結構あったため、ピア・コミュニティの広報に効果があった。
・午前午後ともに休憩に来る人や飲食しに来る人は常時おり、休憩所が少ない学園祭の場では需要を満たすことができた。

改 善 点

〇準備時
・各コミュニティへの掲示物提供依頼が上手く伝わらず、締め切りを延期した。
・A4 サイズは座って休憩しながら閲覧するには見えづらいことに学園祭前日に気がつき、当日の朝までポスター作成に時間をかけてしまった。
・企画実施までの全体的な流れの管理、把握ができていなかった。
〇実施、片付け時
・各コミュニティの写真や企画ポスターは企画ごとに掲示したが、今ひとつどのような活動なのかがよく分からなかった。
・ピアエリアの柱の周りにオレンジの丸椅子を配置したが、机の高さに合っておらず、結局元の椅子を持ってくることとなった。
・休憩所の配置に関して、知らない人と向かい合わせになることで周りの目を気にする人がいたように思えた。
・学園祭終了後の原状復帰が大変だった。

感　　想

他コミュニティのメンバーとピア・コミュニティという団体の一員として活動を行ったのは良い経験になったと感じる。これからも、学園祭という大勢の人々が集まる機会を利用して、さらに多くの人々にピア・コミュニティについて知ってもらえるような企画を参加者全員で協力しながら行っていきたい。

◆企 画 名　ウィンターワーク 2016
日　　程　2016 年 11 月 15 日（火）
場　　所　第 4 学舎　4003 教室
参加者数　12 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 3 名、学生支援室 TA1 名、職員 3 名）
目　　的

・コミュニティ間の交流を促進し、サポータ同士のつながりを深め、今後の円滑なピア・サポート活動につなげる。
・サポータにスキルアップの場を提供し、今後のピア・サポート活動の中で活用してもらう。

内　　容

≪本部ワーク「褒めることでモチベーションをあげよう」≫
まず、個人でモチベーションをあげる、もしくは維持する方法を考えてもらい、その後グループでそれぞれの意見を共有し、出た意見を模造紙にまとめて発表してもらった。
次に、今回のワークのメインである、「褒める」ということでモチベーションをあげることに着目し、「褒める」スキルを学べ、さらに他コミュニティとの交流も促進することができる、カードゲーム方式の「褒めゲーム」を行った。
※当初の計画では、11 月 25 日に TA さんによるワーク「話に引き付ける技術」を予定していた。しかし参加者がほんの少ししか集まらず、当初予定していた人数に満たなかったため、今回は中止とし、11 月 15 日の本部ワークのみの実施とした。

効　　果

・参加者人数は決して多いとはいえなかったが、少人数の利点を生かし、参加者同士で交流を深めることができ、サポータ同士のつながりができた。
・ワーク後に行ったアンケートでも、他のコミュニティの方から今後のピア・サポート活動に活かそうと思うという感想があったため、目的の一つであったスキルアップの場を提供するという点が達成できた。

改 善 点

・時間の都合によりアイスブレイクを自己紹介のみにしたため、初対面のサポータとの打ち解けに時間がかかった。短い時間でより打ち解けられるアイスブレイクを考えていく必要がある。
・前日までにするべき用意やグループワークの班分けができていなかったため、準備が慌ただしかった。準備は前日の時点で終わっているようにする必要がある。
・実施場所でのリハーサルができなかったため、机や椅子、スクリーンの配置が分からなかった。次回からはリハーサルでも当日と同じ場所で行うように調整すべきだと考えられる。
・スクリーンが座席側から見ると見にくい場所にあったため、参加者が椅子を移動させるという手間が生じてしまった。次回からは準備のときに座席側からの視点も重視する必要がある。
・サマーワークと比べると他のコミュニティからの参加者は増えたものの、まだまだ参加者は少なかった。参加者募集の告知方法や応募方法などをより工夫していく必要がある。

感　　想

・サマーワークの反省点を活かし、担当者間でうまく連携して企画を行うことができたと感じた。
・サマーワークと比べると他のコミュニティの参加者は増えたので良かったと感じた。この調子で、今後このような企画を実施するにあたり、より多くの方に参加してもらい、他のコミュニティとの交流を深めていきたいと思う。

◆企 画 名　ピア・サポート団体交流イベント（名城大学）
日　　程　2016 年 12 月 11 日（日）
場　　所　名城大学天白キャンパス
参加者数　6 名（ピア・サポータ 3 名、学生支援室 TA1 名、職員 2 名）
目　　的

名城大学において Active Conference～新入生支援改革～が開かれた。本企画は名城大学の主催で行われ、日本全国のピア・サポート活動を実施する、興味のある大学生が同大学に集まり（101 名参加）、入学後の新入生を対象としたピア・サポートに関することについて意見交換した。

企画に参加することで新たなピア・サポートを模索するほか、他大学のピア・サポータに関西大学のピア・サポート活動を発信する機会にもしたい。

内　　容

【全体会】

それぞれが新入生の時に困ったこと、悩んだことについて話し合うグループディスカッションを通じて、新入生支援企画を考えるうえでのウォーミングアップを行った。

【グループワーク】

新入生支援に関することを 3 つのテーマに沿って話し合った。

（テーマ 1）

各大学で行われている新入生支援企画を共有した。

（テーマ 2）

テーマ 1 で共有した新入生支援企画の問題点、改善点について話し合った。

（テーマ 3）

テーマ 1、2 で話し合った内容を参考に、新たな新入生支援企画を考え、企画書を作成した。

【エンディング】

グループワークで話し合った新入生支援企画を発表し、よい企画だと思ったグループに投票し、優勝チームを決めた。

効　　果

・新入生支援企画に関する情報収集ができた。
・他大学のピア・サポータへ関西大学ピア・コミュニティの活動を紹介できた。
・大規模なイベント開催のノウハウの収集ができた。（駅からの案内員の配置、遠方から来た人のためのクローク対応、参加者に配付されたしおり等）

改 善 点

・今後活かせるような、大学の枠を超えたピア・サポータ同士のつながりをつくることはできなかった。
・交流イベントに参加した 1、2 回生（関西大学ピア・サポータ）の人数が少なかった。

感　　想

グループワークで各大学のピア・サポート活動について共有し、その活動の問題点、改善点について話し合った。その際ピア・サポート活動の問題点、改善点はどの大学も似通っていると感じた。例えば、企画の集客率の悪さ、ピア・サポート団体の知名度の低さなどである。これらの問題点、改善点は関西大学ピア・コミュニティでも長年の懸案事項となっている事柄である。ピア・サポート活動に取り組む大学間で、成功、失敗事例やノウハウの共有ができれば、各大学のピア・サポート活動がさらによいものになるのではないかと考えさせられた。

◆企 画 名　2017 年度入試誘導
日　　程　2017 年 2 月 1 日（水）～2 月 8 日（水）
場　　所　関西大学千里山キャンパス
参加者数　19 名（ピア・サポータ 14 名、研修生 5 名）
目　　的

・4 月から関西大学の仲間（peer）になるであろう受験生に対し、誘導活動を行うことで、新 1 年次生へのピア・コミュニティの普及とピア・サポート活動の精神の涵養を目的とする。
・他のコミュニティのサポータとともに誘導活動を行うことで、サポータ同士の交流を促進し、今後の活動に生かす。

内　　容

主な活動は、受験生が試験会場を間違えないように、案内用プラカードを持ち、声をかけるなどして誘導を行った。具体的な活動として、受験会場がわからず、戸惑っている受験生を中心に声掛けをしたり、受験票を確認して、正しい受験会場に案内したり、受験生だけでなく、保護者の方や試験監督の方などの質問にも対応するなどした。

午後からは、試験を終えた受験生の帰り道の誘導を行った。具体的な活動として、関大前駅までの道順を積極的に声をかけて誘導したり、退出不可の道がある旨を受験生に伝えたうえで、プラカードを持ってわかりやすく経路を説明したりするなどした。

効　　果

・関大生の一員として教職員や他団体の学生と一緒に受験生のサポートを行うことができた。
・ピア・コミュニティのジャンパーを着たことで、新 1 年次生へピア・コミュニティの広報を行うことができた。
・各配置に複数のピア・サポータを配置したことで、活動中はそれぞれサポータ同士の交流も行えたと思われる。

改 善 点

・トランシーバで指示された情報を他のトランシーバを持っていない人に伝える際に、担当場所を一時的に離れなければならなかった。
・今回は、例年よりも多くのサポータが参加したこともあってか、急な欠席や連絡ミスが多かった。
・担当者間での情報共有がうまくいっていなかった。

感　　想

新アクセスを今年から利用したことや、電車の遅延が起きたことで、今までよりもイレギュラーな対応が多かったが、大きな問題もなく終えられたことはとても良かった。しかし、急な欠席による人員交代や連絡ミスが多かったため、シフト管理をもっと徹底すべきだった。朝早くから夕方まで一日中の活動であったが、参加者一人一人がピア・サポータとしての自覚を持って誘導を行っていたと思われる。来年度も今年度の反省点や改善点を活かして、今年度よりも多くの人数で入試誘導を行ってほしいと思う。

◆企 画 名　ピアエリアの活性化
日　　程　2017 年 3 月より
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　14 名（ピア・サポータ 10 名、研修生 4 名）
目　　的

ピア・コミュニティの活動拠点であるピアエリア（ピア・コミュニティ・ルームを含む）を、より使いやすく活性化させることで、ピア・コミュニティの活動が円滑かつ活発に行われるようになることを目指す。

内　　容

ピア・コミュニティの活動拠点であるピアエリアについて、コミュニティ間の日常的交流の促進およびピアエリアの適切な管理運営を行うため、運営本部にてピアエリアの現状および問題点を検討した。その現状および問題点の改善のため、備品を購入し、活用することで、ピアエリアの活性化の促進を図るものである。

〈ピアエリアの現状および問題点〉
・各コミュニティのピアエリアの使用状況（ミーティングや企画）の共有が十分ではない。
・ピア・コミュニティ・ルームの壁面を有効活用したい。
・ネームタグの保管場所がわかりにくく、取り出しにくい。
・ミーティング時にパソコン等を使用する際、電源を確保するための延長コードに引っ掛かりやすい。

効　　果

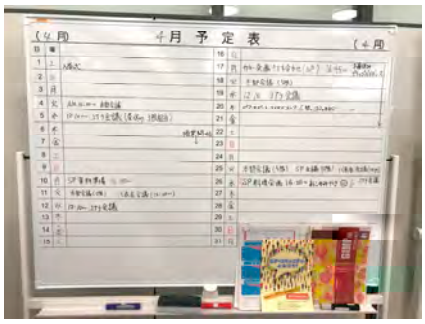
・罫線（1 カ月予定表）ホワイトボートを活用し、各コミュニティにおけるミーティングや企画の予定等が共有できるようになった。
・マグネットホワイトボードを壁面に貼りつけたことで、各コミュニティからのお知らせ等を書き込むことができ、情報共有がしやすくなった。
・マグネットフックを壁面に貼りつけコミュニティごとにネームタグを掛けられるようにしたことで、取り出しやすくまた管理もしやすくなった。
・延長コードの個数や配置を見直しケーブルカバーを設置したことで、延長コードへの引っ掛かりがなくなった。

改 善 点

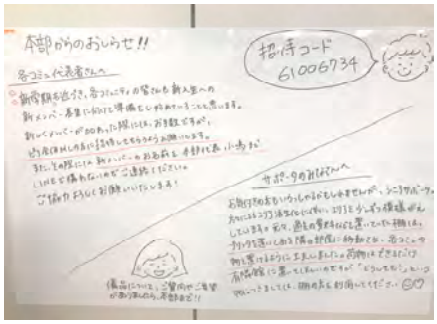
上記問題点を改善したため、現状は特になし。

感　　想

・以前より、各コミュニティからピアエリアをより使いやすくしてほしいという意見がある一方でなかなか実現できずにいたが、今回実施することができてよかった。
・運営本部として、ピアエリアの適切な管理運営を行っていく上での課題などについて話し合いの機会を設けるきっかけとなってよかった。
・今後ピアエリアを拠点として、より一層各コミュニティでピア・サポート事業を活発に実施してほしいと思う。



罫線（1 カ月予定表）ホワイトボード



マグネットホワイトボード

◆企 画 名　ピア・コミュニティ春合宿
日　　程　2017 年 3 月 13 日（月）～3 月 14 日（火）
場　　所　関西大学　高岳館
参加者数　25 名（ピア・サポータ 13 名、研修生 6 名、学生支援室 TA3 名、教職員 3 名）
目　　的

①ピア・コミュニティに関する知識の習得やコミュニティの現状把握を通し、よりよい企画運営を行う自信をつけることで、ピア・サポート活動に対するモチベーションを上げる機会にする。
②他コミュニティのことをより深く知ることで、今後のコミュニティ間の円滑な交流を図る。

内　　容

（一日目）
・開会挨拶、企画説明
・アイスブレイク
・本部企画ワーク「ピア・クエスチョン」
・本部企画ワーク「TA、シニア・サポータ座談会」
・懇親会
（二日目）
・レクリエーション
・本部企画ワーク「企画運営のためのプロセス」
・アンケート記入、閉会挨拶

効　　果

・「TA、シニア・サポータ座談会」を通して、コミュニティの現状や改善点を把握することができた。また「企画運営のためのプロセス」では、企画を実施する上で必要なことやふりかえり方法について理解することができた。
・アイスブレイクやレクリエーションでは、他コミュニティの人と親睦を深めることができ、今後の活動を円滑に進めるためのよい機会となった。

改 善 点

・準備段階において情報共有があまりできていなかった。また、仕事の割り振りを行ったものの一部の人の負担が大きくなってしまった。
→担当者だけに任せきりにしないようにする必要がある。割り振られた仕事をしっかりと行い、進捗状況を会議などで確認する。
・昨年より他コミュニティからの参加者は増えたが、充分とは言えなかった。
→参加者を増やせるような企画を実施する。また、他コミュニティが行っている企画へ積極的に参加し、交流を増やすことで今後の企画に参加してもらいやすくする。

感　　想

今回企画した「TA、シニア・サポータ座談会」は、コミュニティの現状や問題点を把握するよい機会となった。ここで聞いた話を今後の活動に活かしていくことが重要であると考える。また、この他のワークにおいても他コミュニティの参加者とともにピアについてのことや企画について学ぶことで、今後のピア・サポート活動に対するモチベーションを向上させることができた。これらを全体的にみると、今回の合宿は非常に有意義なものだったと感じた。

2.2.2　国際コミュニティ“ＫＵブリッジ”

■　ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ“KU ブリッジ”（以下、「KU ブリッジ」という）は、留学生の学生生活の充実を図るため、日本と諸外国との文化交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■　所属人数

25 名（男 6 名、女 19 名）

＊1 年次 5 名、2 年次 7 名、3 年次 4 名、4 年次 8 名、大学院生 1 名（2017 年 3 月末現在）

■　ミーティングの概要

定例ブリッジ全体ミーティング 週 1 回、定例国際部ミーティング 月 1 回

この他、企画チームのミーティングを週 1 回、3 部署（デザイン部、渉外部、人事部）のミーティングを週 1 回程度行う場合もある。

■　ピア・コミュニティ内の連携について

企画は 3～4 人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に 1 回の全体ミーティング（以下、「MT」という）で KU ブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MT の前半において各グループ 5 分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料など携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにすることで、情報共有を徹底している。また MT 後半において各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたりワークを行うことで、KU ブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

■　ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他コミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることの良さを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■　教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KU ブリッジと支援母体である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るため、昨年度に引き続き、毎月 1 回国際部職員と KU ブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化や KU ブリッジが国際部へ求めていること、国際部が KU ブリッジに求めることについて意見交換をし、その結果、KU ブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の大切さを認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■　昨年度からの改善点

KUブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年KUブリッジとして何をしなくてはいけないかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、ワークを通してこれらを達成するよう取り組んできた。例えばKUブリッジの弱みを認識し、改善するためのワークを行った。このワークは次年度も引き続き行うが、ワークのみにとどまらず実際に普段のミーティングや企画に反映していくことが重要と考える。また、弱みに関しては団体を運営していくにあたって常に認識されるものであるが、これまでの活動を支えてきた強みも再度認識し、後輩に伝えていく必要がある。そのためには上位年次のみならずOB・OGの意見も重要と言える。今後も様々な立場からの意見を反映し、メンバー皆が同じ目標に向かって活動する団体を目指したい。

◆企 画 名　ようこそ関大プロジェクト
日　　程　2016 年 4 月 3 日（日）
場　　所　100 周年記念会館
参加者数　122 名（ピア・サポータ 9 名、研修生 4 名、留学生会 3 名、一般学生 31 名、留学生 75 名）
目　　的

新入留学生と在学生の交流の場を提供し、彼らのキャンパスライフが充実したものになるようきっかけ作りをすると同時に、新入生が関西大学を知る機会を作る。また KU ブリッジ、留学生会の存在を知ってもらい、今後の各種イベントに気軽に参加できるようアプローチする。

内　　容

9:00 全体ミーティング
9:30 設営開始
10:30 受付開始
11:00 開会式、アイスブレイク
11:40 ランチタイム
12:50 アクティビティ、参加者同士の連絡先交換
14:00 記念撮影後、校友会 Spring Festival にて参加者自由解散、スタッフは撤収開始
15:30 フィードバック、スタッフ解散

効　　果

参加者が 100 名を超える大規模なイベントであり、さらに日本人学生、留学生共に十分な人数の人たちに参加してもらえたこともあり、参加者の求める交流の場を提供することができた。また、開会式で KU ブリッジ、留学生会の各団体が紹介の時間を設けたことにより、一度に多くの学生にその存在を知ってもらう良い機会となった。

改 善 点

・不測の事態に備え、ピアエリアではなく日曜でも開室可能な有鄰館会議室または下宿先に荷物をおくべきであった。
・参加者人数を把握するため、当日も国際部との連絡を密に取るべきだった。
・お手洗への動線が確保されておらず、案内標示も用意できていなかった。
・待ち時間に KU ブリッジの紹介ビデオを流すなど、参加者が退屈しないような工夫をするべきだった。
・団体紹介の時間が長かった。また、英語も準備しておくなど言語設定をするべきだった。
・昼食の時間が早過ぎた。また、スタッフの食事が用意されているのか把握していなかった。
・ゲーム作りに時間がかかって当日まで曖昧な部分があった。前日ミーティングでメンバー全員に確実に情報共有することが必要である。規模が大きいイベントでのゲームは既存のものに頼ることも視野にいれておくべきである。また、イベント内の企画をもう少し増やしてもよかった。
・アンケートに全員が回答するような方法を考え、他言語も用意するべきだった。
・音声、照明の方と打ち合わせを行うべきだった。

感　　想

新年度が開始してすぐのイベントであり、今学期から関西大学で学ぶ留学生はもちろん、日本人学生も多数参加しての大規模な企画であった。大人数が参加するイベントということや、昨年度のフィードバックから、今まで行ってきた屋外でのアクティビティを雨天時でもできる内容に、一から考え決行したことなどから、様々なトラブルが発生することもあり、非常に運営側にとっては大変なことが多く起こった。しかしアンケートから満足度は 98%と高い評価が得られたので、スタッフは大規模な国際交流イベントをやり遂げたという達成感を感じることができた。

◆企 画 名　KU バザー
日　　程　2016 年 4 月 13 日（水）～4 月 14 日（木）
場　　所　第 2 学舎 1 号館前ベンチ
参加者数　54 名（ピア・サポータ 9 名、研修生 2 名、留学生 43 名）
目　　的

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を KU バザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内　　容

＜当日の流れ＞
4 月 13 日（水）、4 月 14 日（木）両日とも以下のスケジュールにて行った。

10:40　会場設営（受付）　有鄰館から物品を運搬、陳列する。
12:10　イベント開始
参加者は受付でチェックインしてから入場する（参加者名簿作成のため）。
方法：名簿に学籍番号と名前を記入の上、その場で KU ブリッジの Facebook をいいね！する。またその際に、どの告知でこのイベントを知ったのか調査する。
スタッフは随時巡回をし、物品の説明などを参加者に行う。
写真係はバザーの様子を写真に撮る。
13:30　イベント終了、撤収作業開始。
残った物品は有鄰館へ運搬する。
フィードバックし、スタッフ用にオンラインで共有、翌日にその改善を反映する。
KU ブリッジの Facebook にて、Thank you ポストと明日の告知を投稿する。
14:30　解散。

効　　果

・無償提供された物品が留学生の手に渡ることによって、喜んでもらえた。
・受付時に全員に KU ブリッジの Facebook をいいね！してもらうことにより、今後の Facebook を用いての広報がより期待できるようになった。

改 善 点

・雨天の心配があったので、国際部交流室など屋内での開催を検討するべきである。
・参加者が多くなかったので、Facebook や対面での告知をより積極的に行うべきである。

感　　想

雨の心配もあったが 2 日間に分けて留学生が集まり、善意で寄付していただいた方たちの温かい想いと共に、多くの物品が留学生の手元に渡った。物品を受け取った留学生たちは皆喜んでおり、運営スタッフもこの KU バザーの意義を十分に感じた。秋学期には物品の回収方法を再考し、より多くの人にこのイベントを知ってもらえるようにしていきたい。

◆企 画 名　Stay and Enjoy in Rokko
日　　程　2016 年 6 月 18 日（土）～6 月 19 日（日）
場　　所　神戸市立自然の家
参加者数　25 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 4 名、一般学生 9 名、留学生 10 名）
目　　的

六甲山の自然の中で留学生と日本人学生が普段の大学生活では行えないアクティビティを通して交流すること。また、宿泊を伴うイベントにすることで長時間一緒に活動し、日頃のイベントより参加者同士の仲を深めてもらうこと。

内　　容

【1 日目】
9:00　関西大学総合図書館前に集合
12:00　六甲山牧場にて昼食
　　レクリエーション・自由行動
14:20　神戸市立自然の家到着
　　オリエンテーション
15:00　カヌー体験
17:30　野外炊飯
20:20　夜景観賞
21:30　風呂・就寝準備等
22:00　消灯

【2 日目】
8:00　起床
9:00　朝食・出発準備・宿舎清掃
9:30　神戸市立自然の家出発
11:15　布引の滝を鑑賞
12:30　南京町到着　　南京町にて昼食
　　参加者流れ解散
13:00　スタッフは現地にてフィードバック終了後、解散

効　　果

野外炊飯やカヌー体験など参加者同士が協力して行うアクティビティを複数実施したことで、2 日間のイベントの中で参加者の留学生と日本人学生が新たな友人となり、交流を深めている様子が普段の企画以上に多く見受けられた。

改 善 点

・台本の作り方が甘かった。セリフまで事前に作成する必要があった。
・公共交通機関での移動で乗降車時に時間がかかった。交通費は事前集金を行い一括支払いにする、事前に利用交通機関に連絡しておく等の対応が必要であった。
・レクリエーションは盛り上がったがもう少し長くてもよかった。
・1 日目は午後に企画を詰めすぎた。余裕を持ったスケジューリングをすべきであった。
・移動時に列がバラバラになった。移動時の誘導担当の割り振りを考えるべきであった。
・下見時と当日の違いが考慮できていなかった。(日陰がなかった、移動時間の見積もり等)
・宿泊施設への支払い方法の確認が不十分であった。

感　　想

6 月中旬開催ということで直前まで天候が危ぶまれていたが、予定していた野外のアクティビティも全て実施することができた。合宿企画ということで普段の企画以上に事前準備の面でスタッフ側の負担は大きかった。当日も運営面では細かいものを挙げればいくつも想定外の事が起こったが、柔軟に対応し参加者を含め皆が一丸となってイベントを成し遂げることができたのが良かったと思う。参加者からも楽しかったという声を複数頂く事ができたため、企画としては大成功であったのではないだろうか。

◆企 画 名　日本の四季を楽しもう！摂津峡新緑ハイキング
日　　程　2016 年 7 月 10 日（日）
場　　所　大阪府高槻市摂津峡
参加者数　24 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 6 名、日本人学生 8 名、留学生 8 名）
目　　的

留学生と日本人学生が交流できる場を提供し、今後の学生生活における良き友人を作るきっかけとすること、また、初夏に適したハイキングや足湯体験を通して、留学生に日本の四季を感じてもらうことを目的とする。

内　　容

＜当日の流れ＞
9:00 スタッフ最終ミーティング。
9:30 総合図書館前にて受付。
9:45 挨拶、自己紹介、一日の流れ説明の後、摂津峡へ向かう。
12:00 徒歩で白滝へ向かう。途中、昼食を取る。
12:30 桜公園にてゲームの説明をし、グループに分かれてもらう。
14:00 スカベンジャーハント実施。
15:00 足湯後バス乗車。
16:00 JR 高槻駅にて解散。

効　　果

・留学生と日本人学生とで言葉を紹介し合うなど、コミュニケーションを取り楽しんでいるようだった。
・グループの人数が適切だったため、しっかりと交流ができた。

改 善 点

・歩くスピードがバラバラなので、前後で大きく分かれてしまった。
　→旗で合図などして、先頭の人が最後尾まで付いてきているか分かるようにする。
・ご飯を全員が座って食べられなかった。
　→レジャーシートを用意する。
・話に夢中になると、周りが見えなくなる。他の人の声かけがなかったら一般の方の迷惑になったりしていたかもしれない。
　→列の真ん中と最後尾にチェック要員を配置する。
・スケジュールがタイトだった結果、解散時間が 1 時間ほど遅くなった。
　→企画書作成段階から、余裕を持ったスケジュールで組む。
・美人の湯までの詳細な地図を用意していなかった。
　→手作りの地図があれば、アクティビティらしさが出る。
・当日までの準備が予定通りにうまくこなせなかった。
　→企画段階で顔を合わせるミーティングをもっと行うべきだった。
・移動手段に公共交通機関を使う際（特にバス）の周りへの配慮不足があった。
　→規模を事前に考慮すべきだった。

感　　想

大自然という環境下で参加者一人一人がコミュニケーションを取り、楽しむことができているようだった。スタッフとしてこのような様子を見ることができ、とてもやりがいを感じた。また、猛暑の中、体調不良者が一人も出ず安心した。

◆企 画 名　KU ブリッジ夏合宿 in 奈良
日　　程　2016 年 9 月 10 日（土）～9 月 12 日（月）
場　　所　奈良県奈良市、天川村
参加者数　12 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 8 名）
目　　的

充実した施設を利用してじっくり時間をかけて研修（ワーク・ミーティング）を行うことで、メンバー全体でこれまでの活動を振り返り、秋学期以降に行う企画について精査・検討することで今後のコミュニティの方向性を再確認し、有意義な活動を目指すことを目的とする。また、みんなで生活を共にし協力することで、メンバー間、特に新メンバーと既存メンバー間の交流を深める機会とする。

内　　容

＜1 日目＞
11:00　近鉄奈良駅に到着。昼食。
14:10　ワーク開始。春学期の振り返り、秋学期の企画（新メンバー企画）について精査。
20:00　ワーク終了。
＜2 日目＞
9:10　ワーク開始。キャンパスツアーの概要と、秋学期以降の KU ブリッジ運営体制について議論。
12:30　昼食後、奈良市内をグループに分かれて散策。
18:30　夕食。
＜3 日目＞
10:00　レンタカー手配の手続きを行い、奈良市を出発。
12:00　天川村に到着。昼食。
13:30　面不動鍾乳洞見学。
14:30　天川村出発。
16:30　奈良市到着。電車で帰阪（途中駅で各自解散）。

効　　果

・メンバー間の仲が深まり、これからの活動を円滑に進められるようになった。
・振り返りを受け、今後の KU ブリッジの体制を考えられた。

改 善 点

・時間配分が詳しくわからなかった（書類の読む時間、発表の時間）。
　→1 つの書類について議論する時間を 30 分にするなど、詳細に決める。
・参加率が良くない。
　→代表・副代表だけでなく、メンバーみんなで参加の声かけをする。

感　　想

今回の合宿は、メンバーにとって春学期を振り返り、チームの進捗を普段よりも客観的に見られる機会となった。また新メンバーにとっては、既存メンバーとの仲を深める良い機会となったことと思う。普段は長時間じっくりと議論することは難しいが、今後もこのような活動を通して実施していきたい。

◆企 画 名　見だおれ！食いだおれ！ディープな大阪再発見の旅！
日　　程　2016 年 10 月 23 日（日）
場　　所　通天閣・じゃんじゃん横町・天王寺動物園
参加者数　28 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 6 名、一般学生 11 名、留学生 7 名）

目　　的

動物園や通天閣といった近くにあるにもかかわらずあまり立ち寄る機会のない大阪の観光地を散策することで、より深い大阪の雰囲気を味わいながら日本人学生と留学生の交流を促進する。また、通天閣の中にある日本の企業やアニメの展示を観覧し、留学生には日本の文化を知ってもらうことも目的とする。

内　　容

9:20 参加者集合（関大前駅高架下）
9:50 関大前駅発天下茶屋行乗車
10:25 動物園前駅着
10:40 通天閣着・チームごとに通天閣内の展示を見学
12:30 じゃんじゃん横町にて昼食・各チームで店に入り食事をとる
14:15 天王寺動物園新世界ゲートに集合・チーム替え・新チームでアイスブレイク
14:30 動物園に入園・チームごとにアクティビティ
16:30 天王寺動物園てんしばゲートに集合･終わりの挨拶・解散

効　　果

・下町である天王寺周辺を自分の足で歩くことで、より大阪の雰囲気を感じられた。
・昼食やチームでのアクティビティを通し日本人学生と留学生の交流を促進した。

改 善 点

・書類が直前まで完成しなかったり、参加者への連絡が遅れたりと不手際が目立った。すべてを企画チームでこなそうとせず時には他のメンバーの手を借りることで、参加者へのスムーズな連絡を最優先にするべきであった。
・予定時間より大幅にずれていたため、参加者は事前に知らせていたタイムスケジュールと実際の動きが異なることを不安に感じた可能性がある。次の行動をこまめに参加者にも連絡することで、参加者の不安を取り除き楽しんでもらえるように工夫する。
・チームに分けて行動する際、日本人の参加者に加え日本人のスタッフがチームに入るため、留学生の割合が少なくなってしまった。日本人の参加者のニーズとしては留学生と交流したいというのが一番だと思われるため、留学生の参加を促す必要がある。次回の企画からは、募集の時点で留学生の人数を多めに設定するなど、当日の動きをイメージしながら募集人数を決定する必要がある。

感　　想

企画の数日前から天候が不安定との予報だったので、急遽集合場所を変更するなど対応したが、当日はほとんど雨が降ることはなくすべての行程を行うことができた。新メンバーによる初企画ということで、ハプニングに備えて当日のスケジュールは充分にゆとりを持つようにした。しかし、予想以上に参加者が時間通りに集合し、出発の時点から大幅に予定が早まったため、以後のスケジュールも臨機応変に変更し余裕を持って進められた。

日本人学生の中には幼い頃に遠足で通天閣も動物園も訪れたことがある人が数名いたが、今回自分の足で歩くと記憶とはまた異なっていたようで楽しんでもらえた。改善点は沢山あるものの、企画後に行った参加者へのアンケートの満足度はかなり高く嬉しく感じている。今後の企画でも今回の反省を生かし、日本人学生と留学生の両者が楽しめる企画を提案したい。

◆企 画 名　KU バザー
日　　程　2016 年 10 月 24 日（月）～10 月 25 日（火）
場　　所　第 2 学舎 1 号館前ベンチ、総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　59 名（ピア・サポータ 7 名、研修生 7 名、留学生 45 名）
目　　的

本学学生及び職員から提供された、家に眠っている日用雑貨（使用・未使用は問わない）を中心とする物品を KU バザーの場で本学全留学生に無償提供することで、留学生の生活における利便性向上を図る。

内　　容

＜当日の流れ＞
10 月 24 日（月）、10 月 25 日（火）両日とも以下のスケジュールにて行った。

10:40　会場設営（受付）　有鄰館から物品を運搬、陳列する。
12:10　イベント開始
参加者は受付でチェックインしてから入場する（参加者名簿作成のため）。
方法：名簿に学籍番号と名前を記入の上、その場で KU ブリッジの Facebook をいいね！する。
また、その際にどの告知でこのイベントを知ったのか調査する。
スタッフは随時巡回をし、物品の説明などを参加者に行う。
写真係はバザーの様子を写真に撮る。
13:30　イベント終了、撤去作業開始
残った物品は有鄰館へ運搬する。
フィードバックし、スタッフ用にオンラインで共有、翌日にその改善を反映する。
KU ブリッジの Facebook にて Thank you ポストと、明日の告知を投稿する。
14:30　解散

効　　果

・無償提供された物品が留学生の手元に渡る事によって、喜んでもらえた。
・受付時に全員に KU ブリッジの Facebook をいいね！してもらうことにより、今後の Facebook を用いての広報がより期待できるようになった。

改 善 点

・物品の量は多いが、質の低い実用的でない物もあった。→イベント開催後に物品を整理し、次回の開催に向けて要らない物を捨てる。
・2 日目はピアエリアで行ったことで、入り口と出口が同じ場所になってしまい出入り口付近が混雑していた。→出入り口は離れた場所に設けるようにする。

感　　想

2 日目は雨天だったが、開催場所変更の判断や周知をスムーズにできた。2 日間に分けて留学生が集まり、善意で寄付していただいた方たちの温かい想いと共に、多くの物品が留学生の手元に渡った。物品を受け取った留学生たちは皆喜んでおり、運営スタッフもこの KU バザーの意義を十分に感じた。引き続き KU バザーを行っていきたい。

◆企 画 名　Global mystery tour in 京都！！
日　　程　2016 年 11 月 20 日（日）
場　　所　錦市場、京都国際漫画ミュージアム
参加者数　15 名（ピア・サポータ 2 名、研修生 5 名、一般学生 3 名、留学生 5 名）
目　　的

古都・京都で日本を代表する漫画に触れ、グループワークを通して留学生と日本人学生の交流を深め新しい交友関係を築く。また、食材の視点から日本の文化にさらなる関心を持つことも目的とする。

内　　容

9:00 悠久の庭にて最終打ち合わせ
9:30 参加者受付
10:00 スタッフ自己紹介、アイスブレイクの後京都へ
11:55 グループで錦市場散策、この間に昼食含む
13:30 錦市場入り口に集合、スカベンジャーハント実施
14:30 京都国際漫画ミュージアムを見学
16:00 アンケート、写真撮影、参加者解散
16:15 スタッフフィードバック

効　　果

・京都の細い道や住宅の周辺をスカベンジャーハントしたので、ローカルな日本を知ることができた。
・錦市場での食べ歩きやチームでのアクティビティを通して、一般学生と留学生の交流を促進することができた。

改 善 点

・企画中、役割が定まっていないメンバーがいた。結果的に参加者と触れ合う時間が少なくなってしまったので、内容ごとで企画メンバーも参加するようにするべきだった。
・移動時など留学生同士で固まることが多く、また日本人参加者が 1 人で歩いていることが多かった。アクティビティごとにグループを組み替えるなどの工夫が必要である。
・日曜日ということもあり、淡路～烏丸駅間がとても混雑しており乗車時に戸惑ってしまった。時間はかかるが準急電車にずらす、集合を梅田駅にする、グループごとに車両を分けるようにするなど工夫が必要である。
・グループでの移動の際に、その様子の写真を撮ってもらうようお願いしていたが、グループごとに枚数に差があった。カメラ係を設けるべきである。

感　　想

企画段階から、案が二転三転してしまい本格的に決まるまでに多くの時間を使ってしまった。しかし、新たにスカベンジャーハントという企画を実施し地図やミッションを作成しなければいけないという負担はあったが、企画後に行った参加者へのアンケートで高い評価を得て、また参加したいという声もあったので企画してよかったと思う。また、企画メンバーが当日一人減ってしまうというハプニングもあったが、事前に台本を当日スタッフに配布していたので臨機応変に対応でき、ブリッジメンバーには大変感謝している。以前京都国際漫画ミュージアムに来たことがあるという参加者がいたが、本を見るだけでなくアクティビティを行ったので、飽きずに楽しんでもらえた。今後の企画でも今回の反省を生かし、一般学生と留学生の両者が楽しめる企画を提案したい。

◆企 画 名　Making SUSHI Samples!
日　　程　2016 年 12 月 17 日（土）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　ミーティングルーム
参加者数　24 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 4 名、日本人学生 7 名、留学生 9 名）
目　　的

日本独自の文化である食品サンプルを実際に作ることや、交流ゲームのクイズを通じて参加者の交流を深めると共に、日本の食文化を学んでもらう機会を提供する。

内　　容

＜当日の流れ＞
9:15　スタッフ集合・会場設営
9:45　参加者受付開始
10:00　参加者集合完了・イベント開始・挨拶・スタッフ自己紹介
10:10　アイスブレイク・サンプル寿司ネタ決め
10:30　交流ゲーム／講師到着・別室にて講師対応
11:20　寿司サンプル作り体験
12:20　体験終了・アンケート記入・記念撮影
12:40　挨拶・企画終了・参加者解散
12:50　撤収作業開始・講師対応
13:50　撤収作業終了・スタッフ会場外にてフィードバック
14:20　スタッフ解散

効　　果

多くのミニゲームを通じて交流を深めた後、日本の文化である食品サンプル作りをスムーズに体験することができた。

改 善 点

・講師との連絡が不十分だったため、請求書の宛名の表記が違った。業者から見積書を事前に送ってもらい国際部にチェックをしてもらう。
・実施が土曜日の朝で 1 限に授業がある人を含め、遅刻者が 4 人いたため、企画開始時間から参加できる学生を募る。
・決裁が下りるのが遅かったので、国際部の連携を密に行う。
・参加者が会場に入りにくかったため、ドアを開けておいたり、会場まで誘導する矢印等を設置する。また、誘導係を配置する。

感　　想

前日に会場設営したのが良かった。前日に会場設営をすることで、余裕をもつことができた。また、前日にリハーサルもしたので、不足部分をリハーサル後に補うことができた。本番はスムーズにミニゲームや食品サンプル作りを行うことができた。しかし、土曜の午前中ということもあって遅刻者が多数いたり、講師との連絡不足で請求書が正確に明記されていなかったりと至らない部分があった。参加者のアンケートをみてみると、イベントに満足してくれた参加者が多く、得られたものも多かった。今回の反省点をいかし、また、楽しい交流会を開いていきたい。

◆企 画 名　春学期キャンパスツアー
日　　程　2017 年 3 月 29 日（水）
場　　所　関西大学千里山キャンパス
参加者数　63 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 4 名、留学生 54 名）
目　　的

2017 年 4 月からの新入生でキャンパス内の施設について分からず困っている留学生に、キャンパスを案内することを通してよりスムーズに大学生活を始めてもらう。また、KU ブリッジのイベントを紹介し、今後の活動への参加を呼びかける。

内　　容

10:40　挨拶、グループ分け。
10:45　キャンパスツアー開始。（所要時間45分）
11:30　全グループが図書館前に集合し、記念撮影後参加者は解散。
　　任意参加で希望者のみ凜風館へ誘導し昼食をとった後、第2学舎1号館4階へ誘導。
13:00　ピアエリアにてフィードバックを行い、解散。

効　　果

留学生がよく利用する施設について理解してもらえた。また、本企画は KU ブリッジスタッフと留学生のファーストミーティングの場であるため、コミュニティの活動を知ってもらう機会にもなった。

改 善 点

・どこで授業が行われるか（特に日本語の授業）を調べておいて伝えるようにすべき。
・日本語も英語もあまり理解できていない人への対応に困った。
　→ツアーが始まる前に資料を渡しておく。（ルートを絵でわかりやすく示したもの、または公式マップの配布があればなお良い。留学生の手元にあるかを国際部に確認し、無い場合は事前に手配を依頼する。）
・交換留学生は、何学部で何を勉強するのかをスタッフが把握しておらず案内で戸惑った。
　→国際部に事前に確認しておく。
・凱風館の場所や用途が曖昧で、案内に戸惑った。
　→KUブリッジスタッフがあまり使わない施設については事前にチェックしておく。
・食堂に大人数で突然向かうことになってしまった。
　→事前に食堂に利用を伝えておくべき。
・突然の時間変更がスタッフに周知されておらず、事前の打ち合わせが全くできなかった。注意事項の確認・台本の読み合わせ・必要な情報の共有・準備物の配布などがなされないままにスタートしてしまった。
　→国際部の事前のプログラムが早く終わってもKUブリッジの準備を待たず早く始めることの無いように、イベント最中の国際部とKUブリッジの連絡はもっと綿密に行う。

感　　想

来年度春学期もたくさんの留学生を関大に迎え、新しい国際交流が広がると思うと、KU ブリッジとして彼らの日本での学生生活が有意義なものとなるようにサポートしていきたいと思った。

2.2.3　ピア・スポーツコミュニティ（ＰＳＣ）

■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。“スポーツ”をキーワードにして、関西大学のすべての仲間と、身体を動かしながら人と人との輪を広げ、学生交流を促進することを目的に活動している。そのため、現役の学生や校友の方への応援活動を行うことで、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、地域の方との交流を促進することで、人との繋がりを感じ、より充実した学生生活を送れるようなサポート活動を行っている。

■ 所属人数

0 名（2017 年 3 月末現在）

■ ピア・スポーツコミュニティの現状

現在は、部員数が 0 名のため、活動ができていない状況である。しかしながら、オリンピックやワールドカップを見ていても分かるように、スポーツは多くの人を感動させ、勇気づける力がある。学生からの要望を的確に捉え、スポーツを通じて関大生の「絆」を深めていけるような活動を再度企画できるようにしたい。

■ 課　題

今後、活動を再開するためには、メンバーの募集が最優先である。体育系課外活動団体への参加率を見ても分かるように、スポーツに興味を持つ学生は多い。それらの学生に、スポーツ行事を行う運営側の楽しさについても感じてもらうことで、メンバーの増加につなげていきたい。まずは、他のコミュニティメンバーの方々の協力を得て、少しずつでも行事を実施していきたい。

2.2.4　ＫＵサポートプランナー（ＫＵＳＰ）

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポートプランナーは「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティ。関西大学生の団体及び個人のアイデア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや学生の視点を生かした関西大学生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、関西大学の多くの学生のキャンパスライフをより良いものにすることを目指している。

■ 所属人数

14 名（男 5 名、女 9 名）

＊1 年次 2 名、2 年次 4 名、3 年次 4 名、4 年次 4 名（2017 年 3 月末現在）

■ ミーテイングの概要

原則 2 週間に 1 回

■ ピア・コミュニティ内の連携

連絡や情報の共有については、メーリングリストと SNS（LINE）を活用することで、会議やその他の連絡が行われていた。特に SNS（LINE）について、メンバー同士で食事に行くなど、メンバー間の交流を促進するためにも活用した。改善すべき点として、メンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。履修を決定する前から、早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるようにする努力が求められる。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーについては、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体である。密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画の計画時や KUSP の運営についてもアドバイスをいただいたことで広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を行うことができた。

■ 昨年度の課題の改善点

昨年度の課題であるキャンセルに関して未だ有効な解決策を見出せていない状況である。リマインドメールの送信や文言の追加のみならず、今後も KUSP が取りうる解決手段を模索していく必要がある。

今年度の課題としては、昨年度より企画の実施数が大幅に減少したことである。これは、メンバーの実行力と企画のアイデアが出ない発想力の 2 つの問題があると思われる。会議などを通して、各メンバーが主体性を身につけて活動できるようにしていき、2 つの問題を解決することが KUSP の最優先事項である。

◆企 画 名　「STEP！」～勉強の仕方を聞こう～
日　　程　2016 年 4 月 11 日（月）～4 月 15 日（金）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　17 名（ピア・サポータ 11 名、一般学生 6 名）
目　　的

本企画は入学したばかりで大学での学びについて知る機会、聞く機会の少ない学生を主な企画対象として実施した。学生に先輩としての経験、大学での勉強への取り組み方を伝える事で学生の学びに対する意欲向上に繋がることを目的とした。
また、この企画を通じて、学生の学部・学年を超えた新たなつながりが生まれるきっかけとなる場を提供することも本企画の狙いであった。

内　　容

参加した 1 年次生に対し、2 年次生以上のピア・サポータが勉強や大学生活等のさまざまな質問・悩み・相談に答えた。
・当日スケジュール
12:10～12:20　準備、待機
12:20～12:50　活動実施

効　　果

文学部 3 名、政策創造学部 3 名の計 6 名の学生が参加した。参加した学生たちは履修している科目の勉強についてなど、各々の悩みを解消できたように思える。

改 善 点

・新年度になってすぐに、KUSP のメンバーの都合でピア・サポータ参加者名簿などの訂正が必要となった。書類の訂正が遅れ、決裁も遅れたために、広報開始日が企画実施の初日となり、その影響もあって例年より参加人数が少なかった。
・参加学生の学部の把握が当日になるなど、運営の動きが遅れることがあった。
・参加者の所属学部が偏っていたこともあり、学部・学年を超えた新たなつながりをつくる場とはならなかった。

感　　想

多くのイレギュラーな問題が発生したものの、参加者の企画に対する声は概ね好評であった。
今回の参加者が企画をどのように知ったかについて、関西大学のインフォメーションシステムから知った人が 3 名、企画を知った友人から教えてもらって参加した人が 3 名であった。人数が少ないため断定はできないが、対象を定め、参加者のニーズにあった企画はクチコミ効果が高いように思われる。KUSP の課題である広報に、今後この経験を活かしていきたい。

◆企 画 名　『整理収納アドバイザー・吉川裕子さんに聞く！片づけたくなる部屋づくり』
日　　程　2016 年 4 月 26 日（火）
場　　所　誠之館 3 号館新館会議室
参加者数　18 名（ピア・サポータ 6 名、一般学生 12 名）
目　　的

収納術やおすすめグッズなどを教えていただき、一人暮らしを行う関大生が効率よく収納し、整理整頓できる方法を身に付ける。

内　　容

整理収納のコンサルティングやセミナーなどをされている整理収納アドバイザーの吉川裕子氏に講演をお願いした。トークテーマとしては、①整理の効果、②整理収納の手順、③おすすめの収納グッズなどで、プレゼンテーション形式で進行された。また、整理収納のレベルを知れるチェックシートを用い、参加者も積極的に参加できる形で講演が行われた。

効　　果

アンケートの結果では、講演会に参加したほとんどの人の参加理由が「内容に関心があった」で、男女問わず参加してもらうことができた。また講演内容に「満足」との回答が多く寄せられた。それに加えて、「多くの収納グッズを知れてよかった」「片付けをこれから頑張っていきたい」などの前向きな回答も多数あった。

改 善 点

・講演会数日前に会場変更となり、参加者を混乱させてしまった。
　→会場を予約する際、参加者が集まらないことを想定して予備の会場を予約し事前にその会場も参加者に伝えておく。
・会場のレイアウト（ポスターをどこに貼るか、机やいすの配置）をあらかじめ考えていなかった。
　→簡単でよいので、事前に会場の見取り図を作っておく。
・アンケートの回収率が低かった。
　→参加者が少人数の時は紙でアンケートを行い、KUSP のメンバーを出入り口に立たせてそこでアンケートを回収する。

また、下記の 3 点が主な原因で参加者が多く集まらなかったと思われる。
・情報共有（参加者の人数等）が遅れたので、コミュニティ内で参加者がどれくらい集まっているか伝わっておらず、本企画の参加者の人数に関しての認識が低かった。
　→企画の進捗状況を逐一報告し、参加者が少ないときは早めに報告し他のメンバーに参加者募集の呼びかけをしてもらう。
・インフォメーション文やポスターのタイトルに見ている人を引き付けるような魅力的な言葉がなかった。
　→コミュニティ内で、タイトルやポスターについて案を共有し、意見を求める。
・時期的にサークルや部活の新歓と重なってしまい、こちらの企画に目が向かなかった。
　→企画を実施する時期に他のイベントが企画されているか、対象の参加者がどの時期なら集まりやすいかを考慮して実施する時期を考える。

感　　想

講演会に参加してくださった参加者には、満足していただき片づけのきっかけを提供することができたのではないかと思う。しかし、今回の企画では参加者がさほど集まらないという結果になってしまった。改善点にあるように、コミュニティ内でしっかり情報共有を行う、実施時期についてよく考えるなど様々なことに目を向ける事が大切であると思った。

◆企 画 名　「KUSP×関大生協　料理企画第８弾　オムライスだよ！全員集合！」
日　　程　2016 年 4 月 27 日（水）
場　　所　総合学生会館凜風館 2 階　生協食堂
参加者数　21 名（ピア・サポータ 6 名、一般学生 15 名）
目　　的

本企画は、実家暮らしで料理が得意でない学生や、健康的かつ実践的な料理のことを知りたい一人暮らしの学生などに向けた企画である。健康バランスを考えた献立や調理法を教わることで、学生の健康や自立を促すことを目的とする。また他学部の学生と共同で料理をすることで、学生同士の深い交流を目的とする。

内　　容

・関大生協の方のご協力のもと、全 5 班に分かれオムライスの作り方を教えて頂いた。
・関大生協の方の実演の後、参加学生がその工程に沿って料理を行った。
・一連の作り方の工程の中で、隠し味や卵をふんわり包むコツ、フライパンを上手く扱うコツ等、アドバイスも多く頂いた。
・関大生協の方による、食生活相談の時間も設けられた。
・参加学生全員でオムライスを食べ、作った感想等を話しながら交流を深めた。

効　　果

・本企画参加者は普段料理をしない方が多く、関大生協の方からのアドバイスや実際に料理をすることで、料理の奥深さ、楽しさ、難しさを感じる事ができたとの言葉を本企画中に聞くことができた。
・本企画で作ったオムライスを家でもう一度作るとの声も多く聞くことができたため、目的の一つである自立を促すことの一助になったのではないかと考える。

改 善 点

・当日に、不足備品の発覚や急遽使用することとなったマイクの準備により、会場準備に手間取ったためもう少し正確に事前確認をすべきだった。
・本企画の手伝いをしてくれるピア・サポータとの情報共有が不十分であった。
・急にオムライス作りを始めてしまい、自己紹介をする時間を設けられなかったため、何か自己紹介を兼ねたコンテンツを入れるべきだった。
・率先して動いていたのが、本企画責任者ではなく、急遽参加して頂いた前副代表であり、まだまだ力不足である事を痛感した。
・全てのスケジュールが押してしまい、予定終了時刻の 19 時 40 分はおろか、凜風館の閉館時刻の 20 時をも超えてしまい、迷惑をかけてしまった。スケジュール管理を徹底すべきだった。

感　　想

運営側としては、細かなミスが目立ちその面では納得のできない企画になってしまったが、参加学生の楽しそうな姿や、家でも料理をしてみるとの声、関大生協の方からの目から鱗となるアドバイスもあり、総じて満足して頂けた企画になったのではないかと思われる。

◆企 画 名　「STEP！」～試験前の不安を解消しよう～
日　　程　2016 年 7 月 4 日（月）～7 月 8 日（金）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　ピアエリア
参加者数　11 名（ピア・サポータ 8 名、一般学生 3 名）
目　　的

新入生を対象に大学での試験について聞きたい事や不安点を聞き、ピア・サポータが答えることで、新入生の不安を解消することを目的とした。また、学生に先輩としての経験、大学での試験勉強やレポートへの取り組み方を伝えることで、学生の学びに対する意欲向上に繋がることを目指し、学生の学部・学年を超えた新たなつながりが生まれるきっかけを提供する場となることを図った。

内　　容

一般学生と昼食をとりながら一般学生の聞きたい事や不安点を聞き、その不安点を解消できるように試験対策やレポートの取り組み方などの経験を話した。

効　　果

初めてのテストに対して何からすれば良いのか、どのようにテスト期間を過ごせば良いのか等の不安を持っていた一般学生は、ピア・サポータがじっくりと話を聞きテスト期間の過ごし方などを話すことで、テストに対してのやる気が出たようだった。また、特に不安などはないが何か聞きたいという一般学生は、ピア・サポータが自分の経験や授業の取り方などを話すことで、今後の見通しがたったようだった。

改 善 点

・書類の提出が遅れたために広報期間が短くなり、参加人数がとても少なかった。
・理工系学部については、同じ学部でも学科が違うと内容も全く変わるため、待機しているピア・サポータの表示を学科別にする方がよかった。
・一般学生が特に聞きたい事や不安点がないという場合に備えて、ある程度話す内容を考えておく必要があった。

感　　想

広報期間が短く、参加人数が少なかったことが残念だった。前もって行動することの大切さを学んだ。参加者は少なかったが、来てくれた学生に対してはきちんと不安を解消できるように対応できたので良かったと思う。

◆企 画 名　輝く自分に！vol.2 ～メイクから自分みがきはじめてみませんか？～
日　　程　2016 年 12 月 19 日（月）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　ミーティングルーム
参加者数　27 名（ピア・サポータ 6 名、研修生 3 名、一般学生 19 名）
目　　的

・自分のメイクに自信がない方、メイクをしたいけどやり方がわからない方を対象に実施し、プロの方に教えていただくことで肌やメイクの知識を身につける。
・メイクの知識を磨くことで学生が自信を持って学生生活を過ごせるようにする。

内　　容

資生堂ライフクオリティー事業の担当者の方に、メーキャップを実習形式で講演して頂いた。基本の肌の手入れやメーキャップのワンポイントなど、学生らしい、明るい印象になるようなメイクを教えていただいた。

効　　果

実習形式の講演であったため、実際に化粧用品を使用しながらメイクを教わることができ、楽しみながら受講してもらえた。参加者のアンケートから、満足度が高いものであったことが分かり、本企画の目的である肌やメイクの知識を身につけることが達成できたと感じた。また、今後も参加したいとの声もあり、KU サポートプランナーの広報にもなる良い機会であった。

改 善 点

・募集人数を少なく設定していたが定員を超える応募があり、講演会費の見直しを行わなければならなかった。事前にしっかりと予想することの大切さを実感した。
・特定のサポータで本企画を進めていたため、当日まで流れを把握できていないサポータが多く、もっとコミュニティ内で共有をすべきだった。
・当日になってのキャンセルが多数あり、連絡無く欠席していた人もいたので、申し込んでいた人に全員来てもらえるようにしたい。
・早い時期から本企画の計画を進めていたにも関わらず、準備をしていなかったため、当日になって用意するものが多かったので、少なくとも前日までには全ての準備が完了している状態にしておくべきだった。

感　　想

企画自体は参加者もサポータも楽しめたので、本企画を行って良かったと感じた。満足度も高く、ヘアアレンジなどの企画もしてほしいという参加者からの声もあり、次回に繋げられることができた。しかし、当日までの準備は反省することも多く、次回から改善していきたいと思った。

2.2.5　ＫＵコアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU コアラは、関西大学の学生の図書館利用の向上を図るため、図書館での展示、図書を通じた交流といった学生視点による独自の工夫を行っている。これまでに、留学生や新入生対象の図書館案内、特集本コーナーの設置、講演会の企画・運営、読書会を行った。

■ 所属人数

21 名（男 13 名、女 8 名）

＊1 年次 2 名、2 年次 7 名、3 年次 3 名、4 年次 9 名（2017 年 3 月末現在）

■ ミーテイングの概要

定例会議 週 1 回

■ ピア・コミュニティ内の連携

週 1 回実施する定例会議にて、企画の進行状況などの情報共有を行うこととしている。また、メーリングリストアプリケーションを利用して、諸連絡や定例会議の会議記録を迅速に行き渡らせるように努めている。さらにクラウドサービスやソーシャルネットワークアプリケーションを利用することにより、情報共有の強化を行っている。但し、インターネットや各種アプリケーションの利用に不慣れなメンバーもいるため、情報共有や使用方法についての書類を配付することにより、このようなメンバーにも配慮している。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

過去に他のピア・コミュニティと連携する企画や他との共催企画を実施した。しかし、近年はこのような共催企画は行われておらず、今後の課題といえる。他のコミュニティとの連携に積極的に取り組んでいきたい。

■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援母体であり、活動予定を担当者がメールで連絡している。また、昨年度より、定例会議の会議記録を図書館事務室に送信し、情報共有に努めている。こうした取り組みより、図書館事務室とのやり取りを活発にし、相互の信頼関係の深化に努めている。

■ 昨年度の課題の改善点

昨年度の課題であったアンケートの回答率の低さは、アンケートをポスターの形式にすることで、改善が見られた。また、今年度も新メンバーの確保ができたので、次年度も春学期に企画を開催し、新メンバーを確保したい。

◆企 画 名　特集本展示
日　　程　2016 年 4 月 28 日（木）～6 月 17 日（金）
場　　所　関西大学総合図書館 2 階　開架閲覧室
参加者数　4 名（ピア・サポータ）
目　　的

本学の学生、特に新入生に図書館へ足を運んでもらうこと。

内　　容

新入生の関心が高そうな、レポートの書き方に関する本の特集展示を行った。併せて、シール貼付形式によるアンケートを行った。

効　　果

展示期間中に累計で紹介した図書 64 冊が借りられた。また、設置したアンケートでは、今回の企画が「とても良かった」「良かった」と回答した人が 28 人中、21 人にのぼった。

このことから、学生に企画に対して興味をもってもらうことができ、また図書館に足を運んでもらうことができたと考える。

改 善 点

実際に飾ってみると、POP の文字が想定以上に小さくて見えづらかった。また、事業計画書の提出が遅れ、図書館事務室の担当者の方々に迷惑をかけてしまった。

感　　想

結果からすれば、特集本企画自体は一定の成果があったと思う。しかし、自分の準備不足で図書館事務室の方など多くの方に迷惑をかけてしまった。第三回の特集本企画も担当するため、今回の反省を生かしてより良いものにしていくよう努力する。

◆企 画 名　特集本展示「第二回　資格試験」
日　　程　2016 年 6 月 20 日（月）～7 月 29 日（金）
場　　所　関西大学総合図書館 2 階　開架閲覧室
参加者数　5 名（ピア・サポータ 3 名、研修生 2 名）
目　　的

・本を読まない人が図書館を利用するきっかけをつくる。
・図書館にあるのは研究・学習の本だけではないことを知ってもらう。

内　　容

資格紹介の図書、TOEIC・漢字・英語・フランス語・ドイツ語・中国語・朝鮮語の検定試験の問題集を選んで展示した。

凜風館 1 階入り口横、IT センター4 階掲示板、ラーニングコモンズ、総合図書館の計 4 カ所にポスターを掲示して広報を行った。

効　　果

アンケート結果（シール貼付方式）

①所属をお答えください

a.文系学部生 120　b.理系学部生 71　c.文系院生 7　d.理系院生 9　e.学生でない 16

②この企画をどこで知りましたか

a.凜風館 9　b.IT センター5　c.ラーニングコモンズ 13　d.総合図書館 123

③図書館に今回特集したような問題集があることは知っていましたか

a.知っていた 21　b.知らなかった 106

④この特集を見て図書館を利用しようと思いましたか

a.思った 86　b.思わなかった 40

計 16 冊の内 15 冊が一度は貸し出されており、アンケート回答数も 100 以上だったので興味を引くことができたのではないかと考える。

図書館を利用しようと思ってくれた人は思わなかった人の約 2 倍であり、図書館に問題集があることを知らなかった人が、知っている人の約 5 倍だったので、目的を達成できと考える。

改 善 点

特集本展示のテーマを書いたボードが見回る度に落下していたので、貼る位置をしっかり考えるべきだった。

ポスター掲示で広報したが、アンケート結果を見ると総合図書館以外の 3 カ所の宣伝効果は薄かったと思われるので、もっと人目に付くポスターを作るべきだった。また、総合図書館に掲示してあるポスターを見て企画のことを知ったのか、直接展示を見て知ったのかが分からないので、アンケート項目を「総合図書館（ポスター）」と「総合図書館（展示）」に分けるべきだった。

感　　想

展示作業をしている最中にも資料を手に取って見てくれる人がいたので、興味を持ってもらえるテーマを選ぶことができたのだと嬉しかった。

記述式だと回答者数は少なくなると予想したので、シール貼付式のアンケートにしたが、予想をはるかに超えた回答数があり驚いた。嬉しいと思うが、ふざけて貼られているシールもあったので、参考になる回答なのか少し心配でもある。また「今まで利用しなかったが、この特集で利用しようと思ったか」の項目をつくればよかった。振り返ると反省点が多いが、図書館の蔵書内容の周知には成功したと考える。

◆企 画 名　特集本展示「第三回 理工系」
日　　程　2016 年 9 月 27 日（火）～10 月 27 日（木）
場　　所　関西大学総合図書館 2 階　開架閲覧室
参加者数　3 名（ピア・サポータ）
目　　的

理系の学生に図書館へ足を運んでもらうこと。

内　　容

理系学部生にとって役立つ本も図書館にあることを広く周知するため、数人の理系の教授におすすめの本のアンケートを取り、それを元にして特集本を集め、関西大学総合図書館にて展示を行った。また、あわせてアンケートを行った。

効　　果

展示期間中に累計で紹介した図書 19 冊が借りられた。他の特集本企画と比較すると少ないが、理系の問題集や参考書は貸し出されるよりそのまま館内で閲覧や使用がされることもあるため、一概に効果が低かったとはいえないのではないだろうか。実際、設置したアンケートでは、「今回の企画で図書館を利用しようと思った」と回答した人が 56 人中 31 人にのぼった。

改 善 点

書類提出、特に展示のため図書が移動していることを示す代本板のデータ提出が大幅に遅れてしまった。また、POP や装飾が頻繁に取れてしまった。

今後は、提出すべき書類は速やかに提出し、装飾についてはテープ等でしっかりと固定するなどの対策を行う。

感　　想

今回、事業運営を自分一人で背負いすぎていたため、多方面に迷惑をかけてしまった。文系学生である自分が理系の本の特集を担当するのは少し荷が重かった。今度からは積極的に他の参加者に仕事をふっていけたらと思う。

◆企 画 名　特集本展示「第四回　食」
日　　程　2016 年 11 月 12 日（土）～12 月 21 日（水）
場　　所　関西大学総合図書館 2 階　開架閲覧室
参加者数　6 名（ピア・サポータ 3 名、研修生 3 名）
目　　的

「食」の歴史、「食」の大切さ、「食」によって育まれる絆を知る。ひとつのテーマで多様なジャンルの本を揃えることで、図書館にはいろいろな本があることを知ってもらう。

内　　容

「食」にまつわる本を展示し、あわせてシール貼付形式によるアンケートも行った。

効　　果

展示期間中に累計で紹介した図書 22 冊が借りられた。設置したアンケートでは、「これまでの特集本展示を見て本を読みたい、借りたいと思いましたか？」という質問の回答者がかなり減った。これは第 3 回までの特集本展示を見ていなかったために答えることができないと思った人がいたのではないかと推測する。しかし、この質問に答えた 74 人中 45 人が「特集本展示を見て本を借りたいと思った」と回答しており、本企画の効果はあったものと思われる。

改 善 点

・他キャンパスの本は貸し出せないことが展示後に判明したため、閲覧のみになった点。今後は、他キャンパスの本は選書しないこととする。
・展示予定の本が除籍されてしまい、貸出可能な本が少なくなってしまった点。
・ポップの内容が本のタイトルのみになってしまった点。内容が分かりづらかった。今後はより多くの人に特集本に興味を持ってもらえるように、本の内容を表す短い文章を入れる。
・提出書類の締め切りが守れなかった点。企画をスムーズに進めるためにも、書類の提出期限は守らなくてはならなかった。また、支援部署や他のメンバーとこまめに連絡を取り合い、企画中はメールなども逐一、確認すべきだった。

感　　想

予想よりも多くの方にアンケートに回答いただき、とても嬉しかった。展示を見てくれている方がいると分かって励みになった。この結果はこれからの特集本展示やそのほかの企画の参考にしたい。

◆企 画 名　POP でプレゼン！関大生のワタシからアナタへ全力でお勧めする本！！

日　　程　POP 作成講習：2016 年 12 月 1 日（木）
POP・図書展示：2016 年 12 月 9 日（金）～2017 年 1 月 30 日（月）

場　　所　POP 作成講習：関西大学総合図書館ワークショップエリア
POP・図書展示：関西大学総合図書館ラーニング・コモンズ

参加者数　20 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 3 名、一般学生 4 名、TA2 名、職員 6 名）

目　　的

図書館の本を紹介する POP 作成の講習を行い、広報・広告に興味を持つ学生やイベント企画をしている学生が POP 作成の目的・視点等を学ぶと共に、図書館に興味を持ってもらう機会とする。

内　　容

①紀伊國屋書店現役書店員の方による POP 作成についての講座及びに POP 作成体験。
②講習会で作成した POP と図書の展示。

効　　果

・紀伊國屋書店の書店員の方による POP 作成の目的・視点についての講演を通じて POP 作成について学ぶことができた。
・一般学生からのアンケート結果が良好であった。アンケート結果では、「書店員さんのレクチャーが貴重だった」「とても楽しかった」との声を頂いた。

改 善 点

・今回の企画は KU コアラ、関西大学図書館、紀伊國屋書店 3 者の合同企画であったため、意思の疎通がとりづらかった。また、広報の期間が短く、周知が十分でなかったことから、もっと早めに広報を開始できるようにすべきだった。
・講習中に不足物が多く発生したことから、事前に準備物を把握しておく必要があった。
・講師の方と直接顔をあわせたのが当日であったため、事前に一度でも内容について話し合ったほうがよかった。
・アンケートは、職員の方など学部生以外の方が回答したと分かるようにすべきだった。
・作成した POP と図書の展示は、図書館内ラーニング・コモンズにて行ったが、貸出回数が少なく、もっと学生が手に取りやすい場所に展示すべきだった。

感　　想

本企画は KU コアラにとって久しぶりの参加者募集型企画であり、同時に初めて紀伊國屋書店と合同で企画を行った。また、広報期間が短い中で一般学生の参加もあり、広報の手段や、実際の運営など改善すべき点は多々あるが、ひとまずこういった企画を無事に行うことができたことは積極的に評価できると考える。

本企画を通じて紀伊國屋書店とご縁を結ぶことができた。今後も紀伊國屋書店との合同企画などもできればよいと思う。

2.2.6　ＫＵサポーターズ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポーターズとは、“仲間同士の助け合い”をキーワードに、学生による学生のための学生相談を実施している。大学生活における些細な悩みや問題について誰かに話を聞いてもらいたい時や、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時など、KU サポーターズが開設している「ほっこり相談室」で、少しだけ手を差し伸べ、サポートすることを目的に活動している。また、ほっこり相談室での活動以外にも、年に数回講演会やワークショップなども開催している。

■ 所属人数

14 名（男 9 名、女 5 名）

＊1 年次 2 名、2 年次 2 名、3 年次 5 名、4 年次 5 名（2017 年 3 月末現在）

■ ミーティングの概要

2 週間に 1 回（その他、企画の進捗状況によって適宜実施）

■ ピア・コミュニティ内の連携

KU サポーターズ用に作成されたメーリングリスト（ML）や本学の SNS、Google ドライブのクラウドサービスにおいて、連絡や情報の共有を行っている。ミーティングに参加できないメンバーとの意見交換ができないことが問題点であったが、今年度から欠席者の意見をミーティング前に集めることで、全員で意見を交換・共有することへ近づいた。その他、メンバー間で互いに連絡を取り合いながら、互いの役職を超えてうまく連携を図れていた。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

KU サポーターズの代表者を中心に、他のピア・コミュニティとの活動共有や共同企画などの進捗状況を共有した。こうすることで代表間での連携傾向を高めることには繋がったが、KU サポーターズに所属する、代表者以外のメンバーは他のピア・コミュニティとの連携はまだ十分とは言えないため、代表者以外のメンバー間での連携も見据えて活動していくことが今後の課題として挙げられる。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援母体であり、活動場所と物理的距離が近いため、相談を行いやすい環境にある。今年度は担当職員の交代があったが、活動を主導している 3 年次が中心に連携し、昨年度に引き続き多くの支援をいただき、より良い活動を行うことができた。このほか、大学学生相談室の相談員の先生にも、夏期合宿に参加していただくなど学生生活支援グループ同様に連携を図っており、双方に良い関係性が築けている。

■ 昨年度の課題の改善点

昨年度の課題であったメンバーのスキルアップは、従来 KU サポーターズが独自に行っていた研修生トレーニングに加え、今年度秋学期より KU サポーターズ勉強会を TA の方にも協力していただくことで達成できた。来年度は勉強会を引き続き行うとともに、長年の課題である KU サポーターズの認知度の向上に取り組む必要がある。

◆企 画 名　ほっこり相談室
日　　程　2016 年 4 月～2017 年 3 月
※期間中、(9 月まで) 月水金 (10 月から) 月火木に開室
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　サポーターズルーム
参加者数　14 名 (ピア・サポータ 12 名、研修生 2 名)

目　　的

大学という環境に上手になじむことができず、大学を自分の居場所とすることに困難を抱えている学生が抱える「大学内に安心できる居場所がいない」「誰かに話を聴いてほしい」という様なニーズに応えるため、より身近な立場で話を聴くことが目的であった。

内　　容

本事業では、同じ関西大学の学生が相談員を務める「ほっこり相談室」を開室し、全 4 回の KU サポーターズ自主トレーニングを受けたメンバーが相談員として対応した。また、開室には 2 人以上の相談員の確保を必須とし、1 回の相談時間は最大 60 分とした。開室時間増加を図るため、10 月からは開室曜日を変更した。

効　　果

さまざまな相談内容を想定した自主トレーニングの効果もあり、利用者ひとりひとりのニーズに応えることができたと思われる。「安心できる居場所の提供」や「話を聴く」という目的の事業であったが、利用者にとっては、ほっこり相談室で過ごす時間がより良い大学生活への一歩となったのではないか。

改 善 点

本年度の利用は 9 件と、例年と比べ少なかった。メンバー不足による開室時間の減少や例年より広報活動が少なかったことが原因であると考えられる。メンバーの募集や広報活動の充実を改善し、より良い事業としたい。また、例年問題とされる KU サポーターズ及びほっこり相談室認知度の低さについても来年度以降の課題として残った。

感　　想

本事業は、KU サポーターズの軸となる活動として 6 年にわたり継続しているため、KU サポーターズの内部事情や時代の変化に伴い、メンバーや利用者にとってより良い事業とするためにマイナーチェンジを繰り返してきた。今後は伝統を大切にしながらも、更なる発展のために定期的に制度を見直す機会を作っていきたい。

◆企 画 名　友達できた？～新入生交流会～
日　　程　2016 年 5 月 24 日（火）
場　　所　総合学生会館凜風館 4 階　ミーティングルーム
参加者数　12 名（ピア・サポータ 4 名、研修生 1 名、一般学生 7 名）
目　　的

新入生の友人関係は基本的に 4 月に作られるが、4 月中に友人ができず悩んでいる新入生も少なからずいる。本企画はそのような新入生を対象に友人作りの場を提供すること、参加者同士やサポータとの交流を通して、学生生活の不安を和らげることを目的とする。

内　　容

16：20　KU サポーターズの紹介、趣旨説明、チーム分け
16：30　アイスブレイク（自己紹介ゲーム・山手線ゲーム）
16：55　ゲーム（1）　ジェスチャーゲーム
17：20　ゲーム（2）　20 の扉ゲーム
17：45　ゲーム終了、解散

効　　果

・企画したゲームが盛り上がり、参加者も楽しんでくれた。企画終了後、数人ずつ固まって退室しており、友人作りの場となった。
・サポータや参加者同士で交流することにより、新入生の抱いている不安を和らげるという目的を達成した。
・アンケートの結果、全員が「大変満足」「満足」との回答で、本企画は有意義なものであった。

改 善 点

・KU サポーターズの活動の趣旨をきちんと把握した上で企画目的を設定し、終始目的達成の意識を持ちながら企画を実施する。
・企画メンバー以外のサポータともスムーズに意見交換できるようにする。
・もっと学生の心にアプローチして不安を和らげる必要があった。ほっこり相談室で実施している傾聴を実施するなど、KU サポーターズの活動を取り入れる工夫をする。
・企画を実行する時期に合っており、かつ学生の目に留まりやすい企画名をつける（「新入生交流会」という企画名が 5 月に適さなかったと思われる）。
・広報期間については、実施時期を早める。企画実施の 1 か月前には計画書を提出し、Facebook やインフォメーションシステム、ポスターなどで周知したい。
・途中参加者が多かったため、途中参加者の対応を考えておく。
・司会以外の役割分担をより明確にする。本企画では参加者のサポート係やタイムキーパー、撮影係を設けたが、分担が明確ではなかった。
・リハーサルを行う際は、実施場所・人数、役割分担、実施案、使用備品など、できる限り本番に近づけて行う。また、あらゆる事態を想定し、状況に応じた役割を設ける。
・途中参加者の方にアンケートフォームを送るためのアドレスを聞く時間を設ける。あるいは、確実にアンケートの回答がもらえるように紙媒体のアンケートを作成しておく。
・会場使用終了の 10 分前には撤収できるよう、時間に余裕を持って企画を行う。本企画では撤収が遅く、会場を次に使用する団体の活動に支障をきたした。

感　　想

本企画は KU サポーターズの新しい企画であったため、企画の実施内容を考えることに難航した。その困難を乗り越え、企画成功まで辿りつけたことは、KU サポーターズの自信につながり、団結力と運営力を高めたと思う。
また、反省も多くあるため、次回以降の企画を行う際は今回の改善点を意識したい。

◆企 画 名　KU サポーターズ夏期自主研修合宿
日　　程　2016 年 9 月 13 日（火）～9 月 14 日（水）
場　　所　関西大学　飛鳥文化研究所・植田記念館
参加者数　13 名（ピア・サポータ 8 名、研修生 1 名、学生支援室 TA1 名、職員 3 名）
目　　的

今後の企画・役職をどうするかなど、秋学期からの活動の内容・方針について、メンバー全員で話し合うことで、お互いの考えを知り、理解を深め、協調性を高めることを目的とする。また、ほっこり相談室を始めとした KU サポーターズの活動の質を高めるため、ワークやスキルアップトレーニングを通して各メンバーの技術向上を図る。

内　　容

【ミーティング】
春学期の反省と今後の方針について話し合った。
【ワーク】
①ペーパータワーワーク
チームで協力して 30 枚の A4 用紙をできるだけ高く積み上げるワークを行った。
②最後のカード当てゲーム
それぞれに配られたカードの情報を口頭だけで交換し、カードの法則を見つけ、公開されていない残りの 1 枚に書かれている内容を当てるゲームを行った。
③コンセンサスゲーム
無人島と砂漠からの生還をテーマに、各チームで話し合った。
【スキルアップトレーニング】
①書類の書き方
注意点等を確認したうえで、実際に書類作成を行った。
②ケース検討
相談場面を設定し、対応方法を検討した。

効　　果

普段とは異なった環境で話し合いを行ったことで、メンバー間の理解や協調性が高まった。また、ワークやトレーニングを通して技術の向上も実感できた。

改 善 点

【ミーティング】
・一人一回は発言するというルールを設け、それを意識しながら参加する。
・事前に議題の周知を行う。
【ワーク】
・各ゲームの目的等をしっかり共有する。
【スキルアップトレーニング】
・準備不足で進行がもたついたため、リハーサルを行うようにする。

感　　想

今回の合宿は非常に有意義であった。合宿を通じて、KU サポーターズのメンバー間で理解を深め、協調性を高めることができた。そして、メンバーそれぞれが大きな学びを得ることができた。この経験を活かし、今後の活動をより良いものに必ず変えてみせる。また、今回の合宿に参加できなかったメンバーもいたため、そのメンバー達にこの合宿の学びをしっかり伝えたいと思う。

◆企 画 名　KU サポーターズ春期自主勉強会
日　　程　2017 年 2 月 22 日（水）～23 日（木）
場　　所　総合学生会館凜風館 1 階　サポーターズルーム、ピアエリア
参加者数　10 名（ピア・サポータ 5 名、研修生 2 名、学生支援室 TA1 名、職員 2 名）
目　　的

ピア・サポート活動を行うためのスキルアップを目的とする。また、KU サポーターズの活動の実務的な引き継ぎも兼ねて行い、来年度の KU サポーターズの運営を円滑に進めるための技術向上を図る。

内　　容

・ラベルを使ったプランニングゲーム
目的：会議などの議論の場において、無意識にしている、人への態度・姿勢を見直すため、あえて偏見で扱われる経験をし、それらの偏見がどのように協力を妨げているかについて学ぶ事を目的とする。
内容：司会役・反論役・賞賛役などの役を、参加者がわからないように割り振り、課題解決型のディスカッションを行った。そうした状況の中でも、いかに議論を円滑に進められるかを模索しながら、課題解決策を議論した。
・書類作成
内容：ピア・コミュニティの運営における、必要な書類やその書き方について、レクチャーを行った。また練習として、事業計画書を作成し、職員さんに添削してもらうことも行った。
・ガイダンス、トレーニング引継ぎ
内容：KU サポーターズ入会希望者に行う、ガイダンスの方法や内容を伝えた。また、KU サポーターズ内の 4 種類のトレーニングの引継ぎを進めた。
・総会ミーティング
内容：今年度の活動の振り返り、今後の事業計画について意見を交わした。

効　　果

書類作成のレクチャー、ガイダンス及びトレーニングの引継ぎを進めることができ、スキルアップを図ることができた。さらに、メンバー同士の考え方や人となりの違いを、改めて知ることができ、互いに意見を言い合える関係性を築くことができた。

改 善 点

総合的に、本勉強会のプランニングに問題があったので、企画の二か月前には準備を始めるようにしたい。さらに、プランニング不徹底に伴って、企画班のコミュニケーションが上手く機能しなかった。これからは、メンバー間で共有したスケジュールに沿って、企画メンバーが主体的に動く様、アプローチを図っていきたい。さらに、今回の反省を次世代の後輩に、書面だけでなく、対面で伝えるようにし、今後の活動に活かしたい。

感　　想

企画実施に係るスキルや技能の不足により、円滑に準備することができなかった。しかし、先輩方や職員さん、そして KU サポーターズのメンバーのお力添えをいただき、なんとか勉強会を終えることができた。今回の経験は、これからの自分達にとって、有意義なものとなった。改めて、メンバー・職員さん・関係者の方々へ、感謝の意を申し上げたい。

2.2.7　ぴあかんず

■ ピア・コミュニティの趣旨

ぴあかんずは、ピア・コミュニティの活動を広報するニューズレター「ぴあかんず」の制作を行うピア・コミュニティであり、各ピア・コミュニティの活動取材のほか、各号において誌面企画を実施することで、関西大学におけるピア・コミュニティの普及とピア・サポート活動への参加のきっかけづくりを目指している。

また、誌面企画については、普段の学生生活に数多く存在している学生同士が支え合い、助け合い、成長しているシーンに着目し、関西大学に関係する人物や出来事を取り上げている。

■ 所属人数

0 名（2017 年 3 月末現在）

■ ぴあかんずの現状

2014 年度から在籍するサポータが不在となり、活動休止状態に陥っている。支援体制は維持しているため、活動を希望する学生がいれば、できる限りの支援を行い、「ぴあかんず」を発行したい。

■ 課　題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。ぴあかんずのサポータとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TA が積極的に支援を行う必要があると思われる。

2.2.8　関西大学ＩＴピア・コミュニティ“i.com”

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学 IT ピア・コミュニティ“i.com”（以下、「i.com」とする）は、“Do　IT！（IT しようぜ！）”をキャッチコピーに、IT スキル（主にパソコンを利用し、映像・Web・ポスターなどを作成する技術）を行使し、関西大学の学生に技術支援する活動を行う。具体的には、「Microsoft Office」や画像編集ソフト「GIMP」の使い方を教える講習会の開催や、ワンポイントアドバイスをまとめた小冊子を作成し、学内で配付する活動などを実施してきた。

■ 所属人数

0 名（2017 年 3 月末現在）

■ i.com の現状

2015 年度からサポータが不在となり、活動休止状態に陥った。

支援体制は維持しているため、活動を希望する学生がいれば、企画を行うためにできる限りの支援を行いたい。

■ 課　題

活動を再開するためには、何よりもまず活動希望者の獲得が不可欠である。i.com のサポータとして活動することの魅力を発信するなど、メンバー募集に力を入れるとともに、活動が再開した場合も軌道に乗るまでは、活動におもしろさややり甲斐を感じられるよう、教職員・TA が積極的に支援を行う必要がある。

2.3　ピア・サポータからのメッセージ

ピア・サポート活動を振り返って

ピア・コミュニティ運営本部　小嶋雛乃

私は、ピア・コミュニティ運営本部に入ったきっかけを、あまり上手く説明できません。私が高校生の時、大学は可能性に満ちた場所で、大学生になれば毎日が充実した生活を送れると思っていました。しかし、いざ大学生になってみると自分のしたいことが見つからず、毎日同じような日々を過ごしていました。そのような毎日は充実しているとは言えず、そういった日々を送っている自分にも嫌気がさしました。一年生の夏休み前に「このまま何もせずにいてはいけない」と強く思うようになり、そんな時目に留まったのが、インフォメーションシステムに載っていた運営本部の新メンバー募集でした。ガイダンスを受けてみて、ここでなら今の生活を変えることができるのではないか、という気持ちから加入することになりました。

2016 年 10 月から、運営本部代表として活動を行っていますが、正直、不安なことや分からないこともたくさんあり、ピア・サポート活動のことで悩むこともよくあります。「自分が代表でいいのだろうか」と思ったことも何度もあります。それでも私がピア・コミュニティでの活動を続けていられるのは、やはり他のメンバーや TA さん、職員さんたちの支えがあるからだと感じています。運営本部だけでなく、関西大学ピア・コミュニティには様々な考え方を持った個性的なメンバーがたくさんいます。ミーティングをしている時は、自分にないアイデアを発言してくれ、活動外でも話していて楽しく安心感のあるメンバーばかりです。ピア・コミュニティに入っていなかったら、このような自分の刺激となってくれるような人たちにも出会っていなかったと思います。

また、私はピア・コミュニティでの活動を通じて広い視野で物事を考えられるようになりました。活動では、人前に出て話すことや、自分の意見を述べる機会が多いですが、以前は人から注目を受けることが本当に苦手でした。今でも得意とは言うことはできませんが、次第に抵抗感は減り、「聞き手側はどのような構成だと聞きやすいのだろうか」など、自分のことではなく、他の人たちのことも考えられるようになりました。

たくさんの新たな経験をさせてくれるピア・コミュニティ、そして、様々な考え方を教えてくれたピア・サポータに出会えたことで、私は充実した大学生活を送っています。新たなことに一歩踏み出すことの大変さ、新たなことに挑戦した時に得られるかけがえのない達成感は、ピア・コミュニティに入ったからこそ経験できたものだと思います。今後の活動を通じて「ピア・コミュニティに入ってよかった」と後輩たちにも思ってもらえるようになってほしいです。

きみと世界をつなぐ橋

KU ブリッジ　手束千鶴

私は KU ブリッジに、大学入学前から入りたいと考えていました。KU ブリッジを知ったきっかけは、Facebook でした。私は、小学生の頃週に 1 日ですがインターナショナルスクールに通っていました。その際に食べた海外の奇抜な色のお菓子が忘れられなくて、海外に興味を持ちました。そして、高校生の時に短期ですが留学に行きました。色んな国の人と接して、会話する中でもっと自分から話せばよかったという後悔とともに、日本で学ぶ留学生にもっと日常生活に沿った身近な日本の文化を知ってほしいと感じました。このような体験から、国際交流サークルではなく大学にいる留学生を対象としていて、留学生と一緒に活動できるピア・コミュニティである KU ブリッジ（以下、「ブリッジ」と略す）に入ろうと思いました。

ブリッジに入ってまだ 1 年ですが、このピア・サポート活動を通して大学での授業では学べないことを多く学べ、また人とのつながりを強く感じました。ピアの活動を行う為にはピア・サポート研修を受けます。様々な研修があるのですが、とても面白かったと思ったのはプランニングの研修です。何人かでグループになり、新入生に向けた企画を考えるというもので、偶然ブリッジのメンバーが集まり、日本文化を伝えるために留学生と一緒に旅行をするという企画を考えました。突拍子もないアイデアでみんなの意見をまとめるのが難しく、行き詰ったりと大変でしたが楽しくてこれからのコミュニティの活動に生かせる良い経験となりました。またこの研修では他のコミュニティの学生と学年関係なく接することもでき、なかなかそのような機会もないのでコミュニティごとの話も聞けて良かったです。ブリッジでは企画などで様々な国の留学生と知り合うことができ、企画後の繋がりもあって校内で会うとみんな声をかけてくれたりします。留学に行かなくても多くの海外の学生と交流でき、私自身も留学生から学ぶことが多くあり、ブリッジに入ったことで自分自身も成長できました。

最後に、ピア・サポート活動で印象に残ったことは、ブリッジの企画で京都の街を様々なミッションをこなしながら散策するという企画を行った際のフィードバックで「錦市場などの観光地よりも京都の古い町並みや細い道を歩くことが楽しかった」という回答がありました。この回答を頂いたとき本当にびっくりしました。普通に歩いている道に興味があるとは考えもつかなかったし、ブリッジに入って企画を作らなければわからないことだと思います。入るときの面接ではとても緊張して何を答えたか覚えていない状況でしたが、入学前から入りたかったコミュニティに入り 1 年後には代表という立場になりました。この題名にもあるように今期のブリッジのコンセプトは「きみと世界をつなぐ橋」です。人との出会いを大切にしながらこれからも学生目線のイベントや企画で盛り上げたいと考えています。

夢

KU サポートプランナー　寺尾一良

1 年生の後期、私は入学後にすぐ入ったサークルを辞めて大学で特に活動することもなく放浪していた。そんな状態の中、2 年生になる前に今の副代表の堂本に誘われて KUSP に入った。最初は深い理由もなく、いろんなことができそうで楽しそうだからというだけで、入る前にピア・コミュニティを知っていたとか企画に参加したということも全くなく、ただただ純粋に楽しそうという理由のみで入った。

「今までで一番地味な代表になること」これが私の目指した代表である。私は 2 年生から入ったので、KUSP の過去の代表の方を 2 人しか知らなかった。それでも「自分は今までの代表のようにはなれない」と強く感じていた。ならば、今ある KUSP の課題を解決していき、後輩たちが企画を行いやすい環境を整えるのが、後輩のため、KUSP の今後のためにできる私の仕事だと思い活動してきた。しかし、至らない点が多く、それをすべて改善できたとは思っていない。

今年 1 年で私が得たものは人を信じることの重要性を理解できたことだろう。輝く自分に！vol.2 ～メイクから自分みがきはじめてみませんか？～の企画では、私の生活がそれまでよりも大きく変わったこともあり、ほとんどすべてを後輩たちに任せた。その中で後輩たちは入ったばかりの研修生を巻き込んで企画の準備を行ってくれた。後輩たちが主体的に研修生に仕事を教えている姿を見て、私はとても嬉しかったし、何よりも「自分で全部する必要はない」ということを本当に実感した。

できないくせに引き受けた仕事を溜め込むことが多い私は、人に頼ることがほとんどなかった。何度か他のメンバーに仕事を振ったが、正直「自分でやった方が早い」と思っていた。しかし、環境の変化で自分では何もできなくなったので後輩に頼らざるを得なくなり、一度後輩にすべてを任せることにした。すると後輩は自分が思っていた以上のことを率先してやってくれていた。後輩にも理由があったのだろうが、後輩を信じて企画を任せた結果であると思うし、その重要性を後輩は私に教えてくれた。

今までのピア・サポートの活動の中で、自分のやりたいことを持っていた人はどれぐらいいるのだろうか。上の人たちが言っていたことに従うだけで満足なのか。みんな自分の中に秘めていることや実現したいこと、夢はないのか。これは私が代表として感じた疑問である。ピア・コミュニティ全体には 100 人もの学生が所属し、それを超える先輩の数々、TA や職員の方のサポートがあるなど環境に恵まれている。確かに人によってはそれぞれ活用しにくい環境かもしれないが、ピア・コミュニティに所属する人の数だけピア・サポートの形はあると思う。ピア・サポートの活動に自分の夢を入れて欲しいと思うし、そのためにこの環境を最大限に活用して欲しいと思う。

ピア・サポートと私

KU コアラ　田村匠

私が、KU コアラに関わるきっかけは、関西大学のインフォメーションシステムで偶然見かけた、KU コアラの新入部員募集だった。その当時、私は自宅から 1 時間ほどかけて通学していること、趣味で続けているピアノと両立することを考えてどんなサークルに入るか迷っていた。そんな中で見た募集の告知に何となく心惹かれ、KU コアラのアドレスにメールをしたことから、私のピア・コミュニティとの関わりは始まった。

正直言って、最初は右も左も分からず、ピア・サポータになるために研修を受けなければならないことを知って驚いたこともあった。そうして、今 KU コアラの代表をしているという現状に私自身改めて驚きを禁じ得ない。この文面を書くにあたり、改めてピア・サポータとしての活動を振り返ってみると、多くの出会いと気づきに溢れたものだったと思う。

私がピア・サポート活動をしてきた中で印象に残ったことは二つある。一つ目は、紀伊國屋書店と共同で実施した POP 講座。二つ目は、名城大学で行われた他大学との交流会に参加したことだ。

まず、POP 講座。KU コアラにとって久しぶりの講演会となったこの企画を担当させていただけたことは、私にとって大きな経験となった。図書館事務室、紀伊國屋書店そして KU コアラ三者の意見を摺り合わせながら企画ができ、今後の KU コアラとして、活動の幅を広げるものになったと思う。また、企画の参加者の皆さんが POP 作成に真剣に取り組んでいる姿を見て、ピア・サポータになってよかったと実感することができた。また、そうしたことで感動を味わえるのだということに気づかされ、普通の学生生活では味わえない体験をすることができた。

二つ目は名城大学で行われたピア・サポート団体との交流イベントに参加したことだ。このイベントを通じて普段出会うことのない人たちと交流でき、ほかの大学の考えや取り組みを知ることで自分自身の気づきにもつながったと思う。また、外に出て積極的に交流することの大切さを感じることができた。

ピア・サポート活動は、学生と教職員の協力があって初めて成り立つものだ。人の支えがなければ、何もできないという当たり前のことを実感できた。また、学生の意見と大学の意見を摺り合わせて、お互いの意見を尊重し、より良いものを作り上げることができるのだと思う。こういったことに気づけたのもひとえにピア・コミュニティに関わることができたからだと思う。

最後に、ピア・コミュニティの益々の発展を祈念して筆を置かせていただく。

正直、面倒でした。

KU サポーターズ　清水琢視

友人がガイダンスを受けに行く。暇潰しにそれに同席する。それが私のピア・コミュニティに、KU サポーターズに入ったきっかけです。言ってしまうと入会したこともただの暇潰しでした。

高尚な志も、強い目的意識もなく入った私は、「めんどくさい」という気持ちを抱えたまま活動することも多く、辞めようと考えた時期もありました。そんな反動か、自分たちの学年が活動の中心となった際にある気持ち（野望）を抱きました。「楽しい環境に変えたろう」ただ自分にとって居心地の良い、もっと言えば都合の良い環境が欲しかっただけの邪なものです。しかし、これが私のピア・サポータとしての転機になりました。

動機としては不純なものでしたが、組織に所属する姿勢が前向きになりました。野望を叶えるために、メンバーといるとき一回は笑い話をしよう、なんてバカらしいことを掲げて活動しているうちに、周りのメンバーに愛着を持つようになりました。そして不思議とその気持ちはやがて自分たちの活動にも広がっていきました。そうしてやっとピア・サポート活動を通して得られるもの、実用的・専門的知識や技能、責任を負いながら他者と協力・交渉し何かをつくる経験、それらの価値の大きさに気づき始めました。

私はピア・コミュニティに入って成長した自信があります。ただし、その自信の大きな支柱は、ピア・サポート活動で得た知識や技能ではありません。新しい考えに至ったことです。私はかつて「やる意味をみつけないと前向きに取り組めない」そう考えてきました。しかし、今では「前向きに取り組んでみたら、やる意味が見つかる」そんな考え方も持つようになりました。おかげで、様々なことに気持ちよく向かい合えるようになり、自分の糧になるものを見つける機会が増えました。「とりあえず前向きに」という人間になれたことが私の最大の成長です。

これを読んでいる人やその周りの人の中には、ピア・サポート活動が面倒だとか、辞めたいとか感じている人もいるかもしれません。ここで言うと怒られるかもしれませんが、私は時には辞める勇気を持つことも大切だと思っています。ただしその場合も「前向き」であることが望ましいと考えます。現状から逃げるためだけでなく、逃げることで何かを新しく得る、そんな意志があった方がいいです。そこまでの思いがないのなら、「一度立ち止まって、周りには恵みがあると思い込んでみて」と伝えたいです。ピア・コミュニティだからこそ得られる貴重なものが見えてくるかもしれません。少なくともピア・コミュニティはただ面倒なだけの組織ではないはずです。辞めようと思っていたのが一転、その恩恵を享受できるようになった私だからこそ確信していることです。

この文章が誰か、特にピア・サポート活動を面倒と感じている人にとって、良き知識、良き経験、良き PEER に気づくことができるきっかけになれば、嬉しいです。

2.4　支援部署職員からのメッセージ

心の個性と“ココロ”の共感性

ボランティア活動支援グループ長　堀律子

心は夕焼け空に似ています。「そこにあるのは分かるのですが、上手く伝えるのは難しい。太陽が少しずつ沈んでいき、明るさ、雲の形がゆっくりと変化していきます。この感動を誰かに伝えたい。」でも、目の前の雄大な情景を、生まれた時から目の不自由な人に、どう伝えたら良いのでしょうか。言葉だけで通じるでしょうか。

皆さんの中には、「口に出さなくても、いるだけで心が通じる」ということを経験した人がいらっしゃると思います。もし、心に個性があり、唯一のものでしたら、互いを理解することはできません。喜びや悲しみを共感できるのは、互いに共通する部分があるからです。

本学の「ピア・サポート」は、この“ココロ”の共感性をもとに、ピア・サポータが対人援助の知識と技術を学び、仲間に共有する活動です。

「ピア活動」をセルフヘルプ活動ととらえると、「同じような課題に直面する人同士が互いに支え合う」ことだけが活動となります。しかし、本学の「ピア活動」は、支え合うだけではなく、ピア・サポータが学んで実践したピアの対人援助の知識と技術を、個々人の将来の社会活動にも活かそうとする主体的な活動です。また、いかに共感し、相手の助けとなるかを考え「自分には何があり、何ができるか」を知り、足りない部分を補うことで得る成長が重要です。学生の皆さんにとっての「ピア・サポート活動」は、「他者のためだけではなく、自身の自立と成長」が目的であり、私たちピア・サポート活動に関わる職員の役割はその活動を支援することです。

心の個性は、共感する心が作ると思います。そして、心の個性は、文化、言葉、知識、愛情、脳の特性などの影響を受け変化していきます。寄り添うことの大切さを「ピア・サポート活動」を通じて広め、人を支え、社会貢献ができる人材、「考動する関大人」の育成を目的に、夕焼け空のように美しい時が永く続くように、関大教職員は今後も支援していきます。

KUブリッジという組織の成長

国際教育グループ　長谷川夏未

私が、KUブリッジと関わりを持ったのは、2014年6月でした。当時のKUブリッジは、職員にたくさんの指導を受けながら、企画実現に向けて、悩みながらもがむしゃらに取り組んでいる印象でした。「外国人留学生と日本人の架け橋になる」という思いを胸に、新しいイベントの企画・運営をし、実績を積み上げていく段階だったように感じます。

1年間KUブリッジの担当からは離れていましたが、2016年からまた担当となり、KUブリッジと関わる機会が増えました。出会った当初に比べ、イベントの企画・運営だけではなく、チームビルディングの必要性について考える時間を設けていることに驚きを受けました。「国際交流をしたい！」、「外国人留学生と日本人の架け橋になりたい！」同じ思いを抱いて、所属しているはずの学生ですが、モチベーションの差があることが長年の課題だったようです。その事実を3年前に担当していたときには気付くことができませんでした。イベントの企画・運営に取り組む一方で、週に1度の定例ミーティングを設けたり、それぞれの学生に役割を与えて責任感を持ってもらう分担制を取り入れるなど問題解決に向けた新たな仕組み作りが始まりました。

従来のKUブリッジだと、代表学生の負担が大きくなりがちな状況でしたが、分担制にすることにより、メンバー全体を巻き込みながら、チームビルディングに取り組む姿勢ができてきました。それぞれが責任感を持ち、KUブリッジの存在意義や、これからのKUブリッジが目指す理想のピア・コミュニティ像をメンバーで共有し、同じ方向に向かってきたように感じました。支援部署担当者として、メンバーの成長を身近に感じた時、私自身ももっとこの団体を良くするために関わっていきたいと改めて思いました。メンバーと関わっていく中で、このピア・コミュニティの活動は、小さな社会であると私は感じました。

書類の書き方や同じ目標に向かうためのチームビルディング、先輩から後輩へノウハウを伝えていくなど、この活動を通して学ぶことは、必ず卒業後もずっと残っていき、活かせるものばかりです。

学生と協働することにより、社会で人と協働する上で大切なスキルを私も見つめ直すことができました。「ピア・サポート活動」の学生主体の「自立型」を大切にしつつ、職員も関わりを持ち続けたいと思います。今後の更なるKUブリッジの活躍に期待しています。

常に新しい気持ちで

学生生活支援グループ　諏訪尭子

今年度、学生生活支援グループに配属され、支援部署として KU サポーターズを担当させていただきました。学生生活支援グループに配属されるまでは 6 年間大学院の教務を担当しておりましたので、この 1 年はこれまでと全く違う業務内容に転職したかのような気持ちで過ごしてきました。

当初はピア・サポート活動が何たるかもわからず、支援部署として学生とどう関わってゆけば良いのかもわからないひよっこでした。新しい仕事への期待よりも「私にきちんと対応できるのか」という不安が頭をよぎったのを思い出します。しかし、今思えば、私と入れ替わりでこれまで長年 KU サポーターズの活動を見守ってこられた先輩職員が異動してしまったこともあり、私が漠然と抱えていた不安より、KU サポーターズの学生の方がきっと何倍も不安を感じていたのではないかと思います。

前述のようにピア・サポート活動について全く知識もなく、これまで大学院生（学部生と違い年齢層がとても幅広いです）や教授を相手に仕事をしていた私は、学部生への対応に戸惑うことも多く、初めの頃は学生に対してすごく機械的に接していたのではないかと反省しています。1 年が経過した今でも、どう対応したら良いのか日々悩みながら接していますが、一緒に担当した同期の職員やボランティア活動支援グループの職員の方々に相談すると、いつも私自身では考えもしないような視点でアドバイスをしてくださり、その度に気付かされることばかりです。

この 1 年は KU サポーターズにとっては「試練の年」だったのではないかと思います。支援部署の担当者が一新したことに始まり、これまでとは違う視点での新しい企画や新メンバーを迎えての合宿、世代交代など、一見どこの団体でも起こり得る普通のことばかりですが、その時々で多くの問題や壁にぶつかってきました。その度に学生は、担当 TA や職員を交えて議論を重ね、試行錯誤しながらより良い団体運営・活動を目指して一所懸命に取り組んできました。チームビルディングの難しさや必要性も学んだことと思います。様々な出来事のなかで、それぞれに責任感が芽生え始めたり、周囲に思いを傾け調整を行ったりと、様々な場面で学生の成長を感じられました。私自身も担当者として皆さんの成長を近くで見守りながら少しずつではありますがピア・サポートの知識をつけ、成長途中です。

ピア・サポート活動を通じて得られるものはたくさんありますが、学生の皆さんは新しいことを学ぼうとする意欲、誰かの役に立ちたいという思いをこれからも大切にして常に新鮮な気持ちで活動に臨んでいただきたいと思います。私も同じように常に新しい気持ちで学生たちをサポートしていきたいと思います。

3　学生支援室の活動報告

3.1　学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等（ピア・サポータの研修を含む。）を行っている。

ここでは、TA（ティーチング・アシスタント）が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポータに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように橋渡し的な役割も果たしている。

2016 年度も前年度に引き続き、TA の関わりとしては、研修生がピア・サポータとして活動するために必要となる知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする「関西大学ピア・サポート研修」をニーズに合わせて内容をアップデートして実施したことや、全コミュニティのメンバーが対象となる「サマーワーク」（2 回目）やオブザーバーとして「ピア・コミュニティ春合宿」に参加したことが挙げられる。また、今年度の TA のうち半数が新規もしくは経験の浅い TA であったことから、継続的・安定的に学生支援室の機能が果たせるようにするため、新規 TA 研修の実施に加え、日常においても引き継ぎと連携の強化に力を注いだ。

これらを通して、今後も継続的そして発展的にピア・サポート活動を行っていくために必要となる知識・スキル等の共有や伝承を行い、さらにはピア・サポート活動支援に携わる人同士の繋がりを強めることができた。

TA は、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。また、ピア・コミュニティ支援を行うには、ピア・サポートに関する専門的知識やピア・コミュニティに対する理解等が必要となるが、教職員については、役職者の変更や人事異動による交代が避けられないことから、質的・量的に十分なピア・コミュニティの支援を継続的に行うためには、TA の存在が重要となる。

TA と教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

3.2　新規ＴＡ研修

1　実施の経緯

学生支援室 TA は、本学のピア・サポート活動において、ピア・コミュニティの活動支援やピア・サポータからの相談対応、ピア・サポート研修の実施等、非常に重要な役割を担っているが、それらの対応は、TA 各自の研究活動や支援活動で得られた経験則に依拠して行われてきた。

しかし、TA にも世代交代があることから、今後も継続的に安定したピア・サポート活動支援を行っていくためには、TA としてピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢についての研修プログラムを策定し、習得できるようにする必要がある。これに対応するため、多くの TA の協力を得て 2013 年度から準備を行い、2014 年度から「新規 TA 研修」として実施している。

2　目　　的

学生支援室 TA として、ピア・サポート活動支援を行う際に必要となる基礎的な知識や技能、姿勢を身につけることを目的とする。

3　参 加 者

学生支援室 TA（継続 TA についても、受講者または講師として参加）

ボランティア活動支援グループ職員

※一部プログラムについては、ピア・コミュニティ支援部署職員も参加

4　概　　要

研修項目・方法について、2015 年度に実施した「新規 TA 研修」をベースとしながら、TA として活動するにあたって身につけておくべきこと、また新規 TA が不安に感じていることなどを話し合い、優先順位が高いと思われるものから講義・ワークを実施した。

表　2016 年度　新規 TA 研修

研修項目	方法	実施日
ピア・サポートの理念	講義・書面	4 月 18 日
ピア・コミュニティと支える人々	書面	－
TA としての心構え	講義	4 月 27 日
コミュニティ支援（担当コミュニティについて知る）	書面・日常	－
コミュニティ支援（サポータとコミュニケーションをとる際の大事なところ）	日常	－

研修項目	方法	実施日
コミュニティ支援（コミュニティ活動の流れ）	講義・日常	6 月 22 日
コミュニティ支援（会議）	日常	－
コミュニティ支援（企画）	ワーク	6 月 1 日
コミュニティ支援（書類作成）	書面・日常	－
担当部署職員との連携	日常	－
TA 同士の連携	日常	－
自己理解・他者理解	ワーク	6 月 1 日

5　所　　感

今年度、TA5 名のうち 2 名が新規もしくは経験が浅いという状況であり、学生支援室を運営するにあたって、できればもう 1 名も増員したい状況であった。

しかし、個々の TA の資質や学生支援室全体としての連携・協力もあるのだろうが、過年度の TA が遺してくれた「新規 TA 研修」を始めとする資料・プログラム等のおかげで、学生支援室としての役割を効率的に果たすことができた。

そういった意味で、本研修はその意義・効果とも十分に認められるものであると考えられるので、支援活動を行いながら研修を行うのは時間的にもキャパシティ的にも難しかったが、研修（講義・ワーク）として計画・実行してくれた。

本学においてピア・サポート活動に継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア･サポータ制度を導入したとはいえ､TA からの支援が重要であることに変わりはない。TA にとって過度の負担とならないよう配慮する必要があるが、TA による様々な支援の質を維持・向上させていくために、引き続き、TA と意見交換を重ねつつ、新規 TA 研修プログラムの充実に向けて取り組んでいきたい。

3.3　学生支援室 TA からのメッセージ

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA　氏原令賀

TA として 2 年間ピア・サポートに関わらせて頂きました。最初はピア活動の難しさを感じ、学生達とどう関わって行けばよいのか悩む時もありました。大分慣れた現在でも、TA として何かできていたかと考えれば、自分なりに精一杯やったという思いと、もっと何かできたのではないかという反省が半々ですが、この 2 年間で主体となっている学生だけでなく、職員、TA の方々と活動していく中で、新たな発見ができたと感じています。以下にコミュニティ支援と研修という 2 つの軸から、私なりの感想と、大切にしていたことを述べていきます。

【コミュニティ支援】

私は「KU コアラ」と「KU サポートプランナー」の TA として活動しました。私が TA をする時、サポータの成功だけでなく、失敗を通した自発的な学びを重要視していました。各コミュニティで雰囲気や対人関係は様々でしたが、サポータ達が抱えやすい共通の問題として、会議の運営方法や引き継ぎの仕方、モチベーションの上げ方などが挙げられていました。こういった問題は、集団で何かを行う時必ず起こる上に解決に時間がかかります。そのため、コミュニティごとの解決方法を、サポータ自身が見つけ出していけるように、失敗した時に話を聴く、自分なりの答えを導き出せるための情報を話すようにしていました。

【関西大学ピア・サポート研修】

関西大学ピア・サポート研修では、2 年間コミュニケーションを担当させて頂きました。研修では、「コミュニケーションとは何か？」といった問題から始まり、傾聴の仕方や良い話の伝え方など、「話し、伝える」実践を通じて理解するようなワークを行っています。去年は緊張しながら行っていた研修ですが、私自身徐々に慣れていき、今年はより研修生の皆さんにこれから先少しでも役立つような研修内容にするにはどうすれば良いか、を他の TA の皆さん、職員の方々と相談しながら内容を改良していきました。コミュニケーションは正解が一つだけではなく、研修していく上で課題はまだまだありますが、よりサポータ達が日常生活で役立つようなものにしていきたいと思っています。また、研修に参加してくださるサポータ達には、一方的に話すような講義形式ではなく、「話す、聴く」ワークを通じて楽しんで研修を受けてもらうよう心がけていました。

最後に、ピア・サポート活動で関わらせていただいた方に深く感謝を申し上げるとともに、今後もピア・コミュニティの活動がより一層豊かになるよう願っております。

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA　佐藤栄晃

コミュニティ支援

本年度も引き続き主に運営本部に関わってきた。本年度の活動で私が重要視した点は、次世代への引き継ぎについてである。コミュニティや世代ごとに引継ぐ方法が違うわけであるが、送り手と受け手の認識のズレや実際に活動してみなければわからない内容もあるためか、引き継ぎが終わってから数カ月どうすればうまくいくかといった悩みを聞くことが多くあった。コミュニティや世代に文化というものがあることは理解していたが、それを自分たちの世代に反映させるためにどうすればよいかといった問いには、私自身どういった助言をすることがサポータの主体性を邪魔することなく、より良いコミュニティ運営につながるか判断に迷うところであった。私はこの点について先輩後輩両サポータの話を聞き、本人たちが何を伝えたいか、また何が知りたいかといったまだ明確にできない部分を聴き、互いに代弁することで、納得できる形に整理する手助けができたのではないかと思う。

以上のような場面は世代交代のたびに何度と起きることであると思うが、サポータ自身はもとより、入れ替わりが激しく関わる時間が少ない TA にとっても、コミュニティの雰囲気や世代の文化を知ることは難しい課題である。

学生支援室運営

昨年度の支援室運営の振り返りをもとに、今年度ではいくつかの改善を試みた。

まず、ミーティングでのタイムスケジュールの調整とコミュニティ情報共有資料の作成及び配布である。これによって昨年度に比べ、ミーティング内での必要項目への時間の割り当てが明確になり意見交流が活発化し、また、配布資料を保管することで TA の引き継ぎ時の資料としての転用も可能になった。

次に新規サポータ（研修生）向けのピア・サポート研修については、既存の研修資料を新規 TA とともにサポータからの意見も踏まえつつ修正を行った。TA は入れ替わりが早いが、毎年新たな視点から修正が加えられることによる内容の充実は、一つの長所であると思われる。

サポータから求められる TA の役割はコミュニティや時期によって変化しうるものであり流動的な側面を携えている。このピア・サポートという活動を支えていく上で、我々TA も柔軟に対応し、より充実した支援ができるよう今後も取り組んでいきたい。

TA としてピア・サポートに関わって

学生支援室 TA　玉村明日香

大学院に進学すると同時に、TA としてピア・サポート活動に携わることとなりました。※ボランティアセンターには、学部生の頃経験をした学生スタッフとしてお世話になっていたこともあり、まさかその自分が学生をサポートする立場である TA として戻ってくるとは想像もしておらず、当初は自分に務まるのかという不安もありました。しかしながら、この 1 年を振り返ってみると、様々な経験や出会いを通じ、TA としての私のみならず、これまでの私自身をも成長させてくれる場であったと思っています。

私が主に携わっていたコミュニティは、「KU コアラ」と「KU ブリッジ」です。その他、コミュニティに関わらず、エリア待機の際などに様々なピア・サポータと関わることもありましたが、定期的に行われているミーティングやそれぞれの企画に関する支援を行う中で感じてきたことは、各コミュニティによって特色があるということです。そして、それぞれの色を生かしながら、企画など目の前の課題に対して取り組んでいる姿を見てきました。同じ意思を持った仲間とともに何かを作り上げることを、私は先に述べた学生スタッフとして経験しています。そこには実行に向けた準備と、何より様々な人との関わりがありました。ピア・サポータたちも、まさにそれらを体感しているのではないでしょうか。従って、私が TA として大切にしようと決めたことは、実際の活動に身を置いているピア・サポータの意思を否定しないということです。TA の立場からアドバイスできる場面ももちろんありますが、自分たちなりの試行錯誤のプロセスを大事にしてもらいたいと思っていました。

また、支援のひとつとして、TA によるピア・サポート研修もありました。私は、「コミュニケーション」を担当しています。ピア・サポートを行う上で活用できるスキルを学べる場ではありますが、それと同時に感じたことは、コミュニティの垣根を超えた、ピア・サポータ同士の交流の場ともなるのではないかということです。ワークなどを通じて意見を交換し、相手を知るだけではなく、それぞれのコミュニティについても知り、更なる活動に活かしてもらえる場ともなるよう、今後も努めたいと思いました。

以上のような支援を行っていく上で、ピア・サポータとできる限り交流を図り、身近な存在となるのはもちろん、TA、そして教職員間での連携も大切にしていました。情報共有によって、支援の質の向上を目指せるだけではなく、これまでの積み重ねによる経験を教わることで、支えて頂きました。現役ピア・サポータとともに、私もまた、チャレンジすることができた 1 年であったと思っています。

※ボランティアセンターはピア・サポート活動ではなく、ボランティア活動支援グループ所管の 1 つです。

TAとしてピア・サポートに関わって

学生支援室TA　並木崇浩

今年度から新たにピア・コミュニティのTAとなった私の、この一年間を振り返ってみたいと思う。私は主にKUサポーターズに携わってきたので、サポーターズの学生との関わりについて述べていくことになる。また、決して良かったことだけではなく困難が多くあったが、それが大きな発見や成長の糧となったため、個人的な内容に触れぬよう気を付けつつ、そのような面についても振り返っていきたい。

春学期からサポーターズ内では様々な問題があった。サポーターズとしての活動を進めるよりも組織の維持自体が危うくなっているように思える。ミーティングの参加率や仕事の割り振り、代表や副代表の負担などが複雑に絡み合い、どう取り組んでいけばよいのかわからず、メンバーたちは困り、意欲も低減しているように見えた。そのような状況の中で、TAとして私はどのように振る舞えばよいか悩んだ。私はこれまでのサポーターズやピアについての知識を持っているわけではないし、またそれを彼らに倣えと言うのもおかしいと思った。これまでの活動内容や、必要な事務作業などのルールはあるが、それをTAが教えることがサポーターズの抱える問題を解決するとは思えなかったからである。そのため当初私はミーティングに参加し、必要であればメンバーの悩みを聴き、直接問題の解決に手を出すことはしなかった。活動への参加のばらつきやサポーターズを辞める人が出てくるなど、問題は続いていたがなんとか維持しているという日々が続いた。

転機となったのは、夏に行った合宿であった。参加したメンバーも同じような感覚を抱いているように思う。メンバー同士が実際に会い、ミーティングやワークを行い、食事や風呂など生活を共にした時間の中で、これまで知らなかったメンバーの一面や苦労をお互い理解することができた。合宿後から活動意欲が高まったメンバーが現れ、率先して企画をマネジメントするようになった。他のメンバーも、自分たちの特徴がよりはっきりし、活かされ始めてきたように感じる。私もこれまでの方法だけでなく、彼らをサポートできるやり方はあると気付くことができた。例えば、話を聴くことで人を支援する上で必要な理論を一緒に学んだり、グループワークという形で体験する勉強会を開くようになった。合宿以前でのメンバーとの関係性では、一方的に知識を教え、ただ学生らは受け取ることになったように思う。本当に彼らが活動するために必要だと感じた上で教える立場になったことで、サポーターズのメンバーが主体である勉強会になった。もちろん、活動内容やメンバーについてまだまだ問題は残っているし、これからも続くように見える。しかし、それらと向き合い、取り組んでいけるようなメンバーであり、コミュニティとなっていく歩みを、TAとしてこの一年を改めて振り返ることでより確かに感じることができた。

参考資料

【参考資料1】

2016年度　事務組織図

2016年10月1日現在

- 理事会
  - 常任理事会
    - 法人本部
      - 総合企画室
        - 企画管理課
        - 広報課
      - 総務局
        - 秘書課
        - 総務課
        - 人事課
        - 東京センター
      - 財務局
        - 財務課
        - 出納課
      - 管財局
        - 管財課
      - 初等中等教育事務局
        - 初等中等教育課
        - 高中幼事務室
        - 北陽事務室
        - 初等部・中等部・高等部事務室
      - 創立130周年記念事業・募金事務局
        - 記念事業・募金事務室
      - 梅田事務局
        - 梅田キャンパス事務室
    - 大学本部
      - 学長室
        - 学長課
        - 研究支援グループ
        - 研究所事務グループ
        - 社会連携グループ
        - 先端科学技術推進機構グループ
        - 地域連携・高大連携グループ
        - 国際教育グループ
        - 国際研究・協力グループ
        - 国際プラザグループ
      - 学事局
        - 教務事務グループ
        - 授業支援グループ
        - 学生相談・支援センター事務グループ
        - 学部・大学院事務グループ
        - 専門職大学院事務グループ
      - 高槻事務局
        - 高槻キャンパス事務グループ
        - 高槻ミューズキャンパス事務グループ
      - 堺事務局
        - 堺キャンパス事務室
      - 入試事務局
        - 入試グループ
        - 大学院入試グループ
        - AO入試グループ
        - 入試広報グループ
      - 学生サービス事務局
        - 学生生活支援グループ
        - 奨学支援グループ
        - ボランティア活動支援グループ
        - スポーツ振興グループ
        - 保健管理センター事務室
      - キャリアセンター事務局
        - キャリアセンター事務グループ
        - キャリアセンター理工系事務グループ
        - エクステンション・リードセンター事務グループ
      - 学術情報事務局
        - 図書館事務室
        - 博物館事務室
        - 出版部出版課
        - システム管理課
        - システム開発課
    - 内部監査室

【参考資料 2】

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

1　趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

2　目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポータ体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3　学生支援連絡協議会

(1)　本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(2)　協議会は次に掲げる者をもって構成する。

ア　学生センター所長

イ　学生センター副所長　１名

ウ　専任教育職員のうちから学長が指名する者　若干名

エ　学生サービス事務局長

オ　学事局（授業支援担当）次長

カ　入試事務局次長

キ　学生サービス事務局次長

ク　学長室（国際担当）次長

ケ　キャリアセンター事務局次長

コ　学術情報事務局（図書館担当）次長

サ　学術情報事務局（ＩＴ担当）次長

シ　学生生活支援グループ長

ス　ボランティア活動支援グループ長

セ　ボランティア活動支援グループ事務担当者　若干名

(3)　第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。

(4)　第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(5)　委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(6)　協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(7)　協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4　議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5　設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6　運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア　ボランティア活動支援グループ事務担当者　若干名

イ　ティーチングアシスタント　若干名

7　事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附　則

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

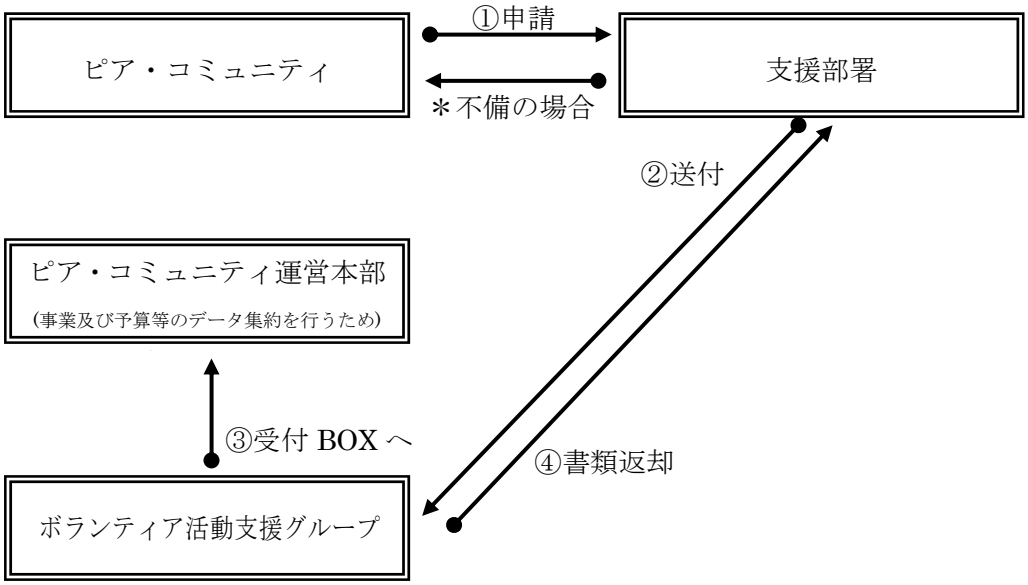
附　則

1　この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

【参考資料 3】

●**【各種申請書類の手続きフロー】**⇒①～④の順に書類を回覧する。



	申請する事項	申請書類	提出期日 （ボランティア活動支援グループ）
	ー　ピア・サポート活動を実施するにあたり　ー		
1	**【実施前】**　ピア・サポート活動を具体的に進めるための申請書類(支援部署より実施を事前承諾された事業のみ)		
	■ピア・サポート活動の目的や内容をまとめたもの	事業計画書	実施 2 週間前 ＊提出後変更があれば、その都度変更書類を提出する
	■参加予定のピア・サポータ及び一般学生などの名簿	参加者名簿	
	◇経費が発生するピア・サポート活動の場合 ＊交通費は見積額を記入。 ＊講師を招聘する場合は謝金･交通費を記入。	予算書	
	◇参加者から「参加費」を徴収する場合 ＊参加費には交通費･入場料･拝観料･お茶菓子等を含む。	金銭収受を伴う行為の許可願	
2	**【実施後】**　ピア・サポート活動実施後の報告書類		
	■ピア・サポート活動の実施状況を報告する	事業報告書	実施後 1 カ月以内 ＊領収書は、助成した金額以上の領収書を添付すること。また、本書を提出すること。
		ホームページ用原稿	
	◇経費が発生したピア・サポート活動の場合 ＊「予算書」を提出した場合には、必ず提出すること。	決算書	
	◇支払った費用の領収書をまとめる ＊領収書の宛名は各ピア・コミュニティ名とすること。	領収書添付用紙	
	ー　ピア・コミュニティを運営するにあたり　ー		
3	次年度の年間行事計画とその予算を立てる	年間計画表	当該年度の1月 31 日まで
4	ピア・サポータの入退会、規約などの変更が生じた場合	ピア・コミュニティ届出事項変更届	その都度
5	研修生の登録、登録情報に変更が生じた場合	研修生登録申請書	その都度

《注意事項》

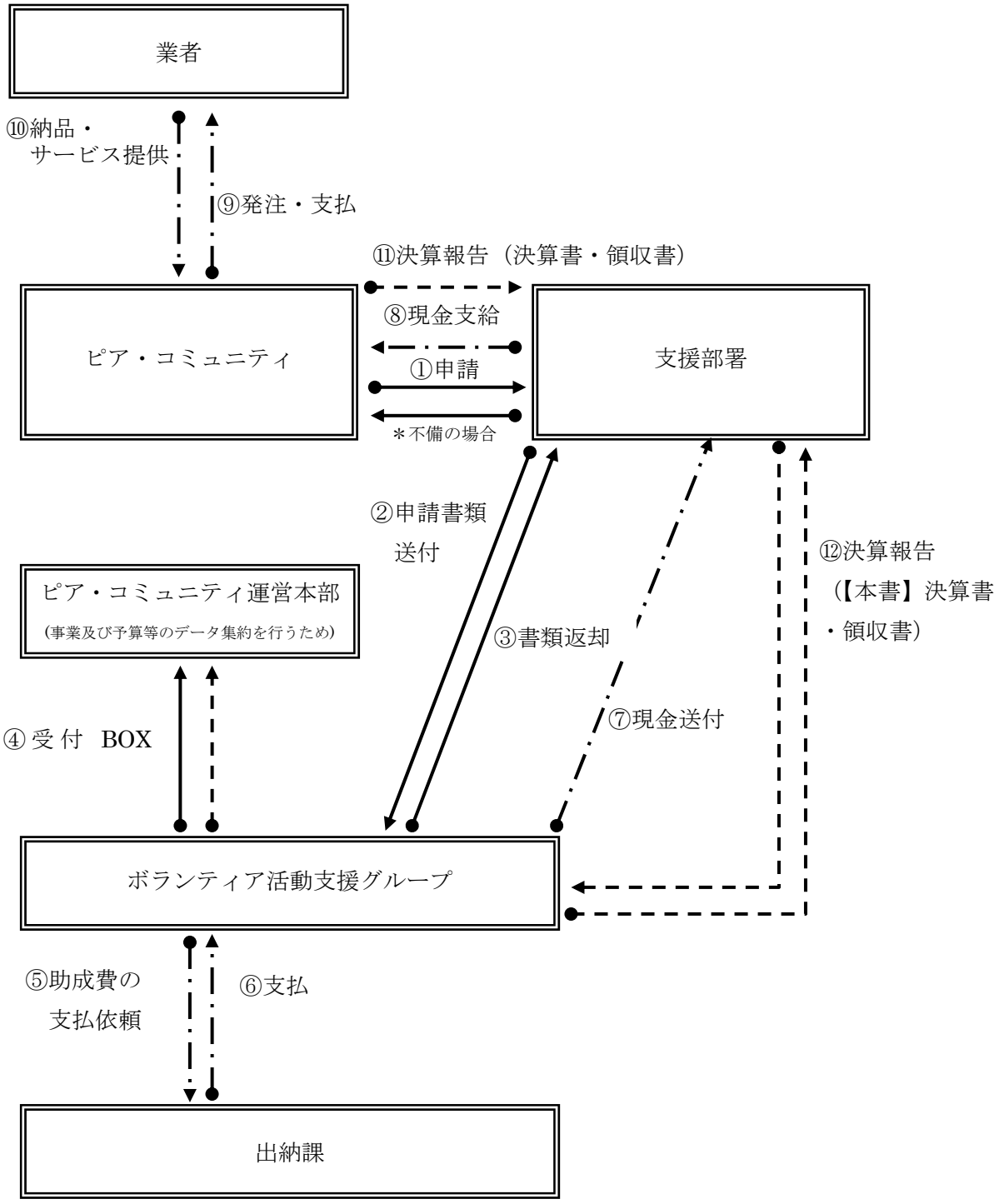
☑　上記のフローは、毎年見直しを行います。

☑　2 つ以上のピア・コミュニティで合同事業を行う場合には、申請手続きや経費負担割合等については、事前にご相談ください。

【参考資料 3】

☑ 関西大学セミナーハウスを利用する場合や交通費の団体割引を利用する場合には、支援部署の教職員が帯同することが必要となりますので、学生センターまで事前にご相談ください。

●**【経費が発生する場合の会計フロー】**⇒⑤～⑩のとおり、必要備品が納品される。



ピア・サポート活動に伴って経費が発生する場合は、活動助成としてボランティア活動支援グループからピア・コミュニティに対して、助成費の支出（原則 1000 円単位）を行います。

《注意事項》

☑ 上記のフローは、毎年見直しを行います。

【参考資料３】

《金銭に伴う取り決め》

☑ ピア・コミュニティ内における会費（部費）を徴収する場合は、独自に会則を設け管理してください。

☑ 参加者から徴収した「参加費」に余剰金が生じた場合は、原則、即日清算を行い返金してください。
また、徴収した「参加費」の管理は、支援部署と調整の上、厳重に管理してください。

以　上

【参考資料4】

2016年度学生支援連絡協議会　委員名簿			
	資　　格	氏　　名	任　　期
ア	学生センター所長	黒田　　勇	～2016/9/30
ア	学生センター所長	岡本　哲和	2016/10/1～
イ	学生センター副所長	赤尾　勝己	～2016/9/30
イ	学生センター副所長	松村　吉信	2016/10/1～
ウ	専任教育職員のうちから学長が指名する者	多賀　　太	2018.9.30
エ	学生サービス事務局長	中塚　義史	役職在任中
オ	学事局（授業支援担当）次長	鶴丸　憲一	役職在任中
カ	入試事務局次長	井村　　誠	役職在任中
キ	学生サービス事務局次長	鈴木　啓祐	役職在任中
ク	学長室（国際担当）次長	松川　健志	役職在任中
ケ	キャリアセンター事務局次長	荒堀　善文	役職在任中
コ	学術情報事務局（図書館担当）次長	山﨑　秀樹	役職在任中
サ	学術情報事務局（ＩＴ担当）次長	中芝　義之	役職在任中
シ	学生生活支援グループ長	鈴木　啓祐	役職在任中
ス	ボランティア活動支援グループ長	堀　　律子	役職在任中
セ	ボランティア活動支援グループ事務担当者	柴田　えつ子	
		春名　未希	

【参考資料5】　ピア・コミュニティ担当者一覧表

部署	2008年度 担当者	2009年度 担当者	2010年度 担当者	2011年度 担当者	2012年度 担当者	2013年度 担当者	2014年度 担当者	2015年度 担当者	2016年度 担当者
教務事務グループ	永山	永山	永山	山咲	山咲	—	—	—	—
授業支援グループ					竹中	—	—	—	—
学生相談・支援センター 事務グループ						中島	中島	久住	久住
入試広報グループ	新谷	新谷	木元 尭部	木元 中田	宇杉 法橋	岩﨑	岩﨑 谷井	岩﨑 谷井	岩﨑 谷井
国際教育グループ	居初	居初	和田 迫田	黒川（～9月まで） 福永	梶井 田中	梶井 工藤	梶井 長谷川	金井	長谷川
キャリアセンター事務グループ	常田	土井	土井	土井	髙原	山花 ~~松本~~	鍛島	—	—
システム管理課	吉井	北野	北野 村田	北野 村田	北野 村田	大内 村田	大内 村田	大内 村田	大内 村田
システム開発課	—	—	宮口 久住	宮口 久住	宮口 久住	宮口 久住	宮口 久住	宮口 後藤	宮口 後藤
図書館事務室	堀口	堀口	徳岡 白髪	白髪	新谷	白髪 新谷	鶴谷 上田	田中 鶴谷	高橋、上田 （10月より石井、井内）
広報課	鶴丸	常田	常田	常田 保呂	保呂	保呂 羽田野	保呂	浦田	仁村 池田
スポーツ振興グループ	原田	原田	原田 山口	山口 内藤	山口 内藤	木下 内藤	小川 内藤	山口 島岡	山口
保健管理センター事務室	井内	川本	川本	川本	川本	川本	築谷	築谷	築谷
学生生活支援グループ	—	—	—	早川 古橋	早川 松田	吉田悠 松田	吉田悠 松田	白髪 松田 吉田悠	諏訪 松田
ボランティア活動支援グループ	神藤	神藤	神藤	神藤 吉田	堀 吉田	吉田え	吉田え	吉田え 春名	柴田 春名

【参考資料6】

2016年度　TAによる支援体制

コミュニティ名	主担者	副担者
ピア・コミュニティ運営本部	佐藤	
国際コミュニティ“KUブリッジ”	小黒	玉村
ピア・スポーツコミュニティ		
KUコアラ	玉村	氏原
KUサポートプランナー	氏原	佐藤
ぴあかんず		
KUサポーターズ	小黒	並木
i. com		

関西大学ピア・コミュニティ 2016 年度報告書

発　行 ： 2017 年 9 月
発行者 ： 関西大学
編集者 ： 中塚　義史
関西大学学生センター　ボランティア活動支援グループ
住　所 ： 〒564-8680　大阪府吹田市山手町 3-3-35
電　話 ： 06-6368-1229
ＵＲＬ ： http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp
印　刷 ： 大都印刷株式会社

KANSAI
UNIVERSITY